

五中-瑞陵創立110周年を終えて



瑞陵会会長 中村利雄（瑞17回）

創立110周年記念事業を無事に成功裡に終えることができました。これも偏に校長先生を初めとする先生方及び同窓生各位の御支援、御協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

記念事業では、先ず感喜堂を修復するとともに、食堂と学習室との間仕切りとエアコンの設置を行い、整備しました。「感喜堂は全日制の生徒も利用できることを知りませんでした」との生徒のコメントを耳にしたことがありますが、生徒の皆さんが快適にかつ諸先輩の偉大な業績に触れながら学習される姿を見るのは、我々同窓生にとっても嬉しい限りです。また、五中のあった瑞穂ヶ丘中学に五中の記念石碑を建立できたのも五中以来の本校の歴史を明確にし、五中諸先輩との絆を深める上で、大変有意義なことであります。また五中の諸先輩にも大変喜んで頂きました。

10月21日には、大村愛知県知事を初めとする多数のご来賓の方々及び約300名の同窓生の皆様の御出席を頂き在校生とともに、記念式典を行うとともに記念行事を盛大に行いました。

記念行事は、同窓生を中心に手作りで企画、運営され、在校生との一体感も醸成された素晴らしいものであり、来賓の方々を含めて高い評価を頂きました。

ビデオレターでは多様な活躍をする（した）先輩を知る機会となっただけでなく、多彩な同窓生の手作りで制作されたことも本校の豊富な人材を示すものとなりました。60

代後半の元応援団員の応援指導も単にガラパコスを見せただけでなく、途中から在校生の参加も得て盛り上がり、応援は出場者を励ますだけでなく、出場者と応援するものとの一体感を作り上げるうえで不可欠なものであることを体感させてくれました。最近では殆ど歌われなくなった応援歌もこれを機会に復活して欲しいものです。

杉原千畝先輩をモチーフにした楽曲も杉原先輩の苦悩と決断それを取り巻く背景情景を見事に表現したものであり聴き応えのあるものでした。

また、その後に演じられた一人芝居は、このことを具体的に見事に演じ、杉原先輩の苦悩、決断、当時の背景を実感する見応えのあるものでした。現在、技術の著しい進歩を背景として社会は大きく変化しております。また、これを背景として世界情勢も大きく変化しており、変化のスピードも凄しいものがあります。杉原先輩のような生き様を実感することは在校生にとってもこの変化の時代を生きていく上で大いに意義があったものと思います。この記念行事の様子を収めたCDを制作してありますので、同窓生の会合等で是非ご覧頂きたく存じます。

昨年同事業の意義について巻頭言で触れましたが、今回の記念事業は、本校の伝統を確認し、伝統に誇りを持ち、伝統を育てる機会になり、大いに成果を上げたものと確信しています。今後とも母校の発展と同窓生各位の発展に資するべく、また、楽しい同窓会活動をモットーに事業を行ってまいりますので、引き続き皆様方の御参加と、御支援、御協力をお願いいたします。

平成30年度瑞陵会 総会・記念講演・交流会のお知らせ

日時 平成30年8月26日（日） 12：00～
場所 メルパルク名古屋 名古屋市東区葵 3-16-16 電話 052-937-3665
(JR千種駅徒歩5分、地下鉄千種駅1番出口すぐ前)
会費 5,000円 当日会場でお支払い下さい。(平成27年3月卒の67回生以降の卒業生は無料)
日程 12：00 瑞陵会総会（2階 平安の間）
記念講演（2階 平安の間）
講師 河原美由紀氏（瑞陵28回）
演題 「すべての出会いは必然 - 誰かの為に歌う。Anointed mass choirの20年-」
終了後移動（受付も移動）
13：30 交流会（2階 瑞雲東の間 ビュッフェ式）
本年度の総会・記念講演・交流会の運営は瑞陵28回生（昭51年3月卒）が担当します。

ご挨拶



校長 新井 忠

瑞陵会の皆様には、ますますご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。日頃から母校の教育活動に特段のご支援ご協力を賜り、心から感謝しております。

また、昨秋には、瑞陵会の皆様のお陰をもちまして、創立110周年記念式典を開催し、同窓生をはじめ多くの皆様とともに110周年をお祝いすることができました。周年行事は、過去を振り返り未来へ夢を託す機会でもありました。在校生は、110周年という節目の年に、本校で生徒として学ぶという巡り合わせを喜ぶと同時に、瑞陵高校という伝統校の一員としての誇りと自覚を持ち、先輩方から引き継いだものを、現在、そしてこれからの自分の人生に活かし、後輩達に引き継いでいくことを認識したようです。私たち教職員も、改めて、これまでの本校の歴史に思いを致し、これからの時代に活躍する生徒の夢と希望が実現できるよう、一層の努力をしまいる所存です。

さて、今年は世界最大のスポーツイベントとも言われている、サッカーW杯が開催されました。日本は、コロンビアに勝ち、W杯史上初めてアジアの国が南米の国に勝利するという快挙を成し遂げ、2大会ぶりに決勝トーナメントに駒を進めるなどして、大いに盛り上がったことは、記憶に新しいところだと思います。ことサッカーに限れば、文句なしの強豪国は、優勝回数5回のブラジルを筆頭に、4回のドイツとイタリアだと思います。今回優勝のフランスやアルゼンチンは2回でしかありません。ドイツは、残念ながら初のグループリーグ敗退となりましたが、これまでの21大会中、ベスト4以上進出が13回と、抜群の安定感を誇る世界有数のサッカー強国ですが、なぜかイタリアが相手となると勝てません。両国の対戦は過去に30回以上ありますが、親善試合も含まれており、いわゆる真剣勝負のW杯と欧州選手権に限れば、イタリアの4勝0敗5分となります。我が国は、選手や指導者の育成システムなどの近代サッカーの基礎と哲学をドイツから学び、さらには、プロサッカーリーグの導入などにより、アジアの強国になったといわれています。勤勉な国民性ととも、そのようなシステムなどにより計画的に育成された、戦術的にも体力的にも優れた選手を数多く輩出し続けているドイツが、とてもそれに勝るとは思えないイタリアに勝てないのは、なぜでしょうか。はじめからあらゆる事態を想定しておかないと落ち着かず、試合に際しても、規律正しく進めるドイツ人と、それとは反対に自らの想像力に身を託して行動し、作戦があってもピッチに立つや忘れてしまうイタリア人。端的に言えば、秩序と無秩序の対決ではありますが、戦術や役割分担が徹底されているドイツに対して、カテナチオと呼ばれる堅い守備とファンタスティックなゲーム運びのイタリア。五中から引き継がれてきた自由・自主・自律の

校風、ここ一番の集中力、お世話になって4年目となり、肌で感じた瑞陵魂とイタリアを重ねてしまう私の妄想をお許しください。

瑞陵生の育成に、我が国の未来を見つけ、希望を持ちたいと思っております。今後とも、本校の充実・発展のために、職員一同全力で取り組んで参りますので、中村会長様を始め瑞陵会の皆様におかれましても、母校の後輩たちに対し、変わらぬご支援を賜りますようお願いを申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

110周年記念事業の記録

瑞陵会事務局 森 重 統 (瑞20回)

1 準備

高木会長から中村会長に変わった平成24年当初、110周年事業が話題になることはあったが、事務局は式典を簡素に行えばそれで済むだろうと軽く考えていた。

しかし、旧講堂(感喜堂)の取り壊し計画(平成24年)に対し大正建築の遺構を残す旧講堂を保存するよう陳情書を提出し(平成25年)、県知事・名古屋市長の視察(平成25年)を経て、耐震工事(平成26~27年)が行われると、110周年記念事業は必然的に考え直しを迫られることになった。工事を契機に旧講堂を改修し、定時制の食堂と全日制生徒の学習空間を両立させるためには、可動式間仕切りやエアコンを設置する必要が生ずる。これには数千万円の経費がかかるので110周年記念事業として対応することになった。こうして平成25年、周年行事のための一般財団法人「瑞陵高校瑞陵会基金」が作られ「110周年記念事業」の原案が出来上がった。これに平成26年以降の役員会で様々な意見が加えられ、最終的に以下の内容となった。

- (1) 記念式典、記念行事を平成29年10月21日(土)瑞光館で行う。式典後の記念行事として「水澤心吾氏一人芝居『杉原千畝物語』」を上演する。記念祝賀会をメルパルク名古屋で行う。
- (2) 卒業生名簿を更新する。
- (3) 旧講堂(感喜堂)に可動式間仕切りとエアコンを設置し学習環境を整える。放送機器やプロジェクターを設置し、講堂としての機能も充実させる。
- (4) 諸先輩の業績を顕彰する。感喜堂にパネルを設置する。図書館に杉原千畝の写真集を贈呈する。諸先輩の著作展示コーナーを設ける。
- (5) 記念ゴルフ大会を開催する。旧講堂(感喜堂)を使った親睦行事を行う。
- (6) 五中の所在地を示す石碑を瑞穂ヶ丘中学校に建立する。
- (7) 上記の目的を達成するため、一般財団法人「瑞陵高校瑞陵会基金」を開設し、募金を呼びかける。
- (8) その他
 - ・100周年以降の10年間の歴史を「瑞陵会報2017」に掲載する。
 - ・本校が掲載された経済雑誌「エコノミスト」を記念式

典の頃に発刊してもらう。

2 実行委員会

記念事業の企画・運営にあたり、同窓会、学校、PTA関係者で五中－瑞陵創立110周年記念事業委員会が組織された。

委員長	中村利雄 瑞陵会会長
副委員長	新井 忠 学校長
副委員長	青木偉晃 瑞陵会副会長 はじめ8名
副委員長	加太義暁29年度全日制PTA会長
副委員長	酒井規子29年度定時制PTA会長

部会名	同窓会担当	学校側担当
総務	佐合広利 副会長 事務局	篠原 昇 (全日制教頭) 兵藤直人 (全日制教頭) 石川治志 (定時制教頭) 森山祥子 (57回)
記念式典 ・来賓、表彰者決定 表彰準備、記念品準備 ・招待状、案内状作成、送付 ・式典パンフレット作成 ・式典会場準備、運営	青木偉晃 副会長 天野清美 副会長 事務局	総務部 水田智之 (34回) 清水日出男 (24回) 受付：PTA 役員
記念事業 (一人芝居・ビデオレター・ 吹奏楽演奏・ゴルフ大会) ・依頼、準備・映写 ・創作演奏、応援歌演奏	荒木郷兵 副会長 佐合広利 副会長 木村鐘治 副会長 事務局 親睦委員長	総務部 武田直樹 (吹奏楽部顧問) 加藤陽子 (32回) 村松聡子 (33回)
記念祝賀会	一ノ瀬喜之 副会長 寺田志郎 副会長 事務局	梶野玲子 (25回) 阪野初枝 (26回) 坂内敬嗣 (20回) 西郷 孝 (27回幹事)
会報 (110周年記念特別号)	濱田 堯 副会長 浜島昭二 副会長 事務局	寺島 貴 (32回)

会計 田中義仁 (事務長) 森 重統 (瑞陵会事務局)

瑞陵会事務局：森 重統、坂内敬嗣、清水日出男、西郷 孝

濱島誠一朗奨学事業委員会顧問 濱島誠一朗 (瑞20回)
(中村会長から感謝状が贈呈された)
瑞陵会並びに一般財団法人瑞陵高校瑞陵会基金
(新井校長から中村会長へ贈呈された)



感謝状贈呈 鳥居 大氏

④生徒代表誓いの言葉

私たちの在籍している瑞陵高校は今年で110周年を迎えました。

校長先生をはじめ、様々な先輩方からいただいたお言葉を大切に、先輩方が110年かけて築き上げた伝統を守り、これから入学してくる後輩に引き継いでいく決心を新たにしました。

そして、「自由・自主・自律」の精神の下、恵まれた環境を積極的に生かして、何事にもチャレンジし、全力で勉強、部活動、学校行事に取り組み、将来どんな道を進むことになっても、瑞陵生として誇りを持って、夢に向かって突き進んでいくことを誓います。

平成29年10月21日 生徒代表 加藤雅大

3 各事業の詳細

(1) 記念式典

①式典来賓 (敬称略)

愛知県知事 大村秀章 / 愛知県教育委員会教育委員 広沢憲治 / 愛知県議会議員 川嶋太郎 高木ひろし 伊藤辰夫 / 名古屋市議会議員 土居よしもと ふじた和秀 / 愛知県立瑞陵高等学校歴代校長 水谷丈市 伊神勝彦 小田博一 山口春久 吉沢雅之 / 愛知県立瑞陵高等学校歴代PTA会長 (氏名略) 愛知県立高等学校・名南地区校長 (氏名略)

②式次第

開式
国歌斉唱
五中－瑞陵110周年事業委員会委員長式辞
校長式辞
来賓祝辞
来賓紹介・祝電披露
感謝状贈呈
生徒代表誓いの言葉
瑞陵高等学校校歌斉唱
閉式

③感謝状贈呈者 (敬称略)

100周年記念事業委員会委員長 鳥居 大(537回)
前瑞陵会会長 高木 修(瑞5回)

- ・卒業生の参加は289名であった。350名の申込みを受けていたが、台風21号接近による悪天候のため若干減った。雨の中行われた受付は全日制PTA役員が担当し、27回生有志が補佐した。
- ・式典司会者として日本テレビナウンサー後藤晴菜氏(61回)に依頼した。多忙の中を快く引き受けていただき、式典に華やかさが加わった。式典後の記念イベントの司会もお願いした。



- ・全日制は午前中授業を行った。青木偉晃副会長 (アオキスーパー前会長) から参加生徒全員分の昼食として、サンドイッチと野菜ジュースがプレゼントされた。定時制の控室は感喜堂とし、昼食をとった後式典に参加した。

(2) 記念イベント

記念イベントには「吹奏楽部演奏」「応援披露」「先輩からのビデオレター」が加わった。

①吹奏楽部演奏

吹奏楽部設立50年に当たることから、顧問武田先生の計らいにより昭和音楽大学講師清水大輔氏に作曲を依頼し、式典当日に記念曲を演奏することとなった。必要経費は長谷川邦雄氏（19回）錦慎二郎氏（20回）等吹奏楽部OBが中心となり10万円を拠出。不足分を同窓会が補助をして実現した。記念曲は杉原千畝をテーマとした、「諸国民の中の正義の人 『命のビザ』を作った男 Righteous among the nations - A man who made a “visa for life” -」であった。

作曲者の清水大輔氏のコメント

瑞陵高校吹奏楽部創部50周年を記念して「愛知五中・瑞陵高校に相応しい曲を創るよう依頼をされました。いろいろ考えましたが、おおらかな校風のなかに流れる「自由」に着目し、「自由であるからこそ進んで良心に縛られた勇氣ある人、杉原千畝氏をテーマにして書いてみました。瑞陵生に愛される曲になることを願っています。（式典パンフレットより）



作曲者の清水大輔氏（右）と司会の後藤晴菜さん



吹奏楽部演奏

②応援披露

昭和50年頃から途絶えていた応援歌を復活させるべく、安島政実副会長（18回）を中心に「古希応援団」を急造し、昭和40年頃の応援を「ぶっつけ本番」で復元した。現役生はあっけにとられていたが、やがてOBと一体となり大きな声で「ああ若人の血は燃えて」を歌った。約70年間の時間が一体化した瞬間であった。（p.14の安島氏の記事参照）



上段の太鼓は古橋成彦（29回）、下段左から安島政実（18回）、石原広道（29回）、近藤正宏（18回）（敬称略）

③先輩からのビデオレター

視覚に訴えた方がわかりやすいという西郷孝氏（事務局）のアイデアで、江戸川乱歩氏から向井慧氏までの諸先輩を要領よく紹介するビデオを作成した。生徒諸君には大好評であった。

制作スタッフ：

ナレーター：後藤晴菜（61回 日テレアナウンサー）、取材：野間美智子（48回 作家）、構成：今井とおる（43回 放送作家）、ディレクター：金澤知子（43回 日テレアックスオンディレクター）、監修：西郷 孝（27回 元瑞陵高校教員）

（p.9の野間美智子さんの記事参照）

④水澤心吾一人芝居

決断・命のビザ～SEMPO杉原千畝物語～

原作「決断・命のビザ」渡辺勝正著 脚本・杉本美鈴

監修・渡辺勝正

杉原千畝氏を題材にした水澤心吾氏の一人芝居が、記念イベントの最後を飾った。今回は、やや短めな60分短縮版での上演であった。前日の夜と当日午前中に入念なりハールサルが行われ、本番は参加者全員に感動を与える熱演であった。



(3) 瑞陵会総会

式典開始前に瑞陵会役員会を視聴覚教室で、記念行事終

了後に瑞陵会総会を感喜堂で行った。総会では、永年勤続職員の甚目孝三氏、太田良平氏、近藤春江氏に感謝状が贈呈された。

祝賀会の会場までの移動手段として、送迎バス（マイクロバス）を2台用意した。受付でご高齢の希望者に整理券を渡す方法をとった。送迎バス借り上げには、天野清美副会長（つばめタクシー）の支援をいただいた。

（4）110周年祝賀会

17時からメルパルク名古屋で行われた。参加者202名、参加費5,000円。司会：一ノ瀬喜之副会長、主催者挨拶：中村利雄会長、来賓挨拶：新井忠校長、乾杯の発声：三宅養三顧問。100周年以降の10年間の出来事をスライドで紹介した。受付は当年の総会・交流会担当学年である27回生が担当した。



（5）110周年関連企画

①110周年記念名簿

名簿は「同窓会の要」であるが、最低でも10年に一度は更新しないと住所不明者が増大する。記念事業に先立ち平成25年から作業を始め、平成26年(2014)秋に発刊した。以前からお世話になっている旭出版で更新をした。作成後、業者からの名簿の売り込み電話で迷惑したという苦情があった。次回更新時の課題である。

②旧講堂（感喜堂）の整備

5時以降は教室で居残り学習が出来ない全日制生徒のため、授業後の学習場所を作ってやりたいという同窓会役員の思いから始まったことである。平成28年から定時制募集定員が1学級に減ったこともあり、可動式間仕切りによる旧講堂の分割が実現した。空調設備だけの寄付は県に受け入れてもらえないので、リース形式となり約2倍の経費が必要となった。

放送機器、プロジェクター等を整備したため、講堂としては使い勝手が良くなり、全日制の学年PTA集会、PTA行事、定時制の卒業式や瑞定祭、卒業生の同期会など様々な集会に利用されている。

③諸先輩の業績の顕彰

当初、写真集『杉原千畝』を来賓への記念品にするとともに全生徒に贈呈しようという意見があったが、募金が十分に集まっていなかったため、図書館に10冊贈呈すること

とした。

感喜堂の壁には江戸川乱歩、杉原千畝両氏のパネルが飾られている。今後は岡部金治郎、谷川徹三、都留重人の諸氏を予定している。

④記念ゴルフ大会

記念ゴルフ大会は2017年5月3日に62名の参加者を得て藤岡カントリークラブで行われた。詳細は「瑞陵会報2017」5頁に掲載。賞品等は参加者からの寄付でまかない、瑞陵会は優勝トロフィーの寄贈等ささやかな協力をした。(瑞陵会会計事業費から支出)

⑤「エコノミスト」10月24日号

「週刊エコノミスト」は、毎日新聞出版が発行するビジネス誌で、「名門高校の校風と人脈」という連載で全国の著名な高校が順次掲載されている。数年前に担当者から各界で活躍する卒業生をリストアップしてほしいという連絡があった。五中の第一回卒業生から70回におよぶ瑞陵の卒業生の中からピックアップするのは困難を極めた。そのうちに「110周年に合わせて掲載しましょう」ということになった。実際には紙面の都合でほんの一部しか掲載できなかったのは残念であった。毎日新聞社長の丸山昌宏氏(24回)から100部の寄贈があり、110周年のパンフレットと共に市内及び尾張地区の中学校に送付した。

⑥石碑「五中之故趾」の建立

平成28年名古屋市が「人道の道」を設定することで杉原氏の業績を顕彰すると、愛知県は瑞陵高校の正門横に杉原氏の顕彰施設を設置することを発表した。これに対し、瑞陵会名誉顧問(故)鳥居大氏から五中の跡地を示す石碑を建設する必要があるとの指摘を受けた(「瑞陵会報2017」p4)。そこで、110周年記念事業の一環として平成29年度に入って急遽五中OB、瑞穂ヶ丘中学校出身の瑞陵OBに募金を呼びかけた。これにより約100万円が集まったので不足分を瑞陵会基金から補助し、平成30年3月に建立、3月22日に除幕式が行われた。碑の石は黒宮造園から寄付していただいた。文字は瑞陵高校書道講師大矢翠光(真里子)氏(25回)にお願いした。建立を待たず12月に鳥居氏が逝去されたことは誠に残念なことであった。ここに謹んで哀悼の意を表す。(追悼文は23頁)



4 一般財団法人「瑞陵高校瑞陵会基金」収支報告

「瑞陵会基金」は周年行事等の大きな事業を支える会計であり今回の110周年事業はここから支出した。

収入 41,059,404円 (含利子、協力者延2,227名、)
平成30年3月31日現在

支出 24,522,381円 (下のA+B)

残高 16,537,023円

今後必要なエアコンリース代金11,322,036円
(あと11年分)

110周年事業支出内訳 (A)

1 可動式間仕切り設置	9,364,464円	(27年8月)
2 パネル(乱歩・千畝)作成と 五中6回卒業生アルバム複製	533,466円	(27年9月)
3 感喜堂放送機器設置	578,275円	(28年9月)
4 記念式典案内文郵送費(全会員)	3,472,545円	(29年3月)
5 記念行事(吹奏楽作曲料、ビデオレター)	535,432円	(29年10月)
6 記念行事(水澤心吾一人芝居)	1,001,296円	(29年10月)
7 110周年式典需用費 (案内状、パンフ、看板、盆栽・花)	962,113円	(29年10月)
8 感喜堂スクリーン、プロジェクター	479,088円	(29年11月)
9 五中石碑(案内文発送も含む)	2,148,807円	(30年3月)
10 エアコンリース代金(平27~29年度分)	2,889,216円	
	(計21,964,702円)	

その他の支出 (B)

1 基金立ち上げ時の募金依頼文書郵送費	2,049,229円	(27年2月)
2 維持費等(登記、役員変更、県税・市税)	508,450円	
	(計 2,557,679円)	

※記念祝賀会費補助90万円は例年の交流会同様瑞陵会事業費から支出した。

5 おわりに

御園座の歌舞伎公演を貸し切って行われた「百周年」に比べると、校内で実施した「110周年」は地味ではあったが、いろいろな意味で充実したものとなったと感じている。瑞陵の場合、「周年行事を何のために誰のために行うのか」の答えは明白である。80周年、90周年・・・と10年ごとの記念行事は在校生全員が参加して行われてきた。「同窓会」は本来的には卒業生相互の親睦組織であるが、母校あつての同窓会であり、母校は毎年卒業生を送り出して同窓生を生み出すとともに新入生を受け入れている。周年行事は卒業生が母校ひいては後輩である若い世代を支援する格好の機会であり、今回の行事が多感な高校生の「心に残る」ものになったなら幸いである。

しかし、残念ながら10年に1回では同窓生の3割しか周年行事のメッセージを体験できないことになる。が、瑞陵会は百周年の頃からポプラシートなどの在校生を支援する体制を作ってきた。今回の記念事業の目玉である、エアコンのついた感喜堂学習室を利用し、先輩の思いを感じてもらえれば、3割はその何倍にもなるのだろう。

最後に、記念事業に関わったすべての方々に御礼を申し上げるとともに、今後益々、母校瑞陵高校および後輩の支援にご協力いただきますようお願い申し上げます。

伝統を守ることの大切さ

307R 加藤 雅大

静寂な雰囲気の中、五中-瑞陵百周年記念式典が始まろうとしている。見上げると、立派なスーツを着た来賓の方々が舞台の上に座っている。この中で自分が生徒代表の誓いの言葉を言っている姿を想像すると頭の中が真っ白になり、緊張で体の震えが止まらなかった。

式典が始まると、会長さん・校長先生の式辞や県知事さんの挨拶から、瑞陵高校が歩んできた百十年の歴史のパワーというものを体全体で感じ取ることができた。



今回の役割は先輩方が私たちに託してくださった素晴らしい瑞陵高校の伝統を守るためにどう行動すべきかということに改めて考えるきっかけとなった。しかし、伝統を守るとは簡単にできるものではない。まず、学生の本業とも言える勉強を毎日コツコツ頑張るのはもちろん、部活動、学校行事も両立させることが基本である。そして、先輩方を模範として行動するだけでなく、僕たちの手で新たな伝統を生み出していかなければ、先輩方の努力によって築き上げられたブランドが廃れてしまう。

高校というのは私たちの人生の通りの道の一つにすぎないかもしれない。だが、教室で勉強できること、校庭で走り回ったり踊ったりできることは地球規模で見れば決して当たり前前のことではない。だからこそ、毎日通っている瑞陵高校に感謝して伝統を築いていかなければならないと思う。掃除をきちんとするとか小さなことでも良い。考えて、やろうとしたことを、勇気を持って行動に移すことがとても大切なのだ。そんなことを考えながら、舞台に立って生徒代表の誓いの言葉を、一文字一文字自分に言い聞かせるように読んだ。

僕も瑞陵生の一員である。一度でも生徒の代表という役目を果たし、この少し格好付けた文章を書いたからには、一つ一つの行動に責任を持ち、「瑞陵生」であることを意識して、生活してゆきたい。

「繋げる」と「繋がる」
～百十周年記念式典に寄せて～

307R 近藤雅熙

「記念式典なんかなんでやるん、必要なくね？」。

記念祭が終わったある日の放課、教室の後方で仲間と談笑している誰かがふとそう口にした。僕は目を本に落としたまま耳だけ後方に傾けた。そして「確かに」「それな、ほんと」と仲間内で共有されていくのを確認した。

と今度は別の誰かが「そういえば」と前置きした後で、「記念祭、ほんと楽しかったね」と言った。記念祭がそれぞれにとって特別なものだからか、あっという間にその話題が広がり、放課の後半は思い出話に花が咲いた。

僕は一人で「記念祭」と「記念式典」の違いってなんだろう、ということに思いを馳せながら、あるスピーチを思い起こしていた。

2005年の、アメリカのスタンフォード大学におけるアップルの創業者スティーヴ・ジョブズのそれである。

彼は「ドットとドットを繋ぐ」という話を冒頭に語った。以下はその演説の抜粋である。

Again, you can't connect the dots looking forward; you can only connect them looking backward. So you have to trust that the dots will somehow connect in your future. You have to trust in something — your gut, destiny, life, karma, whatever. This approach has never let me down, and it has made all the difference in my life.

彼は、「ドットとドットは繋げようと思って繋げられるものではなく、あとで自分の足跡を振り返った時に“繋がっている”ことを認識できる」ものであり、「ドットとドットが未来のどこかで繋がっていると信じて行動せねばならない」と言ったが、このジョブズの言葉を借りれば、「記念祭」は（いつかそれが繋がると信じて）「ドットを創る」行事であり、「記念式典」は、「ドットとドットが繋がっているか、足跡を振り返る」行事だと言えはしないだろうか。

百十周年記念式典は、在校生と卒業生の間での「繋がっている」という認識の共有を、より確固たるものにし、諸先輩方が脈々と繋いでこられた結果、こうして繋がってきている瑞陵高校の歴史を僕たちにしっかりと感得させてくれるものであったと思う。

応援歌やビデオレターに始まり、卒業生である杉原千畝を演じた水澤心吾氏の一人芝居「決断 命のビザ ～SEMPO 杉原千畝物語～」、さらには、作曲家の清水大輔氏に創部五〇周年記念曲として書いていただいた「Righteous among the nations 『命のビザ』を作った男」の演奏などなど。

百十周年記念式典は、瑞陵高校がこの間に創ってきたドットがひとつに紡ぎだされ、編まれた結晶である。そしてまた、今回の式典はその結晶こそが瑞陵高校という大きな作品でもあるのだと実感できたとても意義深いものであったと思う。僕たちの学年それぞれがドットであるのなら、僕たちもまた、それを構成する一つ一つのドットなのであろう。瑞陵生として三年間で生むドットが、いつか未来のどこかで繋がるのかは分からない。しかし、繋がっていると信じて行動することはできるはずだ。

110周年記念式典は、瑞陵高校のドットの結晶が一回り大きく、またより輝かしいものになっていることを僕たちに実感させてくれたような気がする。次の世代にこの壮大な結晶を繋ぐことができるように努力し、一人一人がこの結晶をつくるドットなのだということを胸に刻みながら、瑞陵生としての誇りを、より一層育んでいきたい。

伝統・学校文化
瑞陵高校の110周年記念式典から学ぶ

愛知県立港特別支援学校長 各務 泰

昨年10月21日（土）に瑞陵高校の「五中一瑞陵創立110周年記念式典」に出かけた。110周年なので名南地区だけに声を掛けて、内々で質素にということだった。しかし、行ってみてびっくり！歴代校長をはじめとして、300人以上のOBが集まっていた。体育館は人でいっぱいだった。会の全てを同窓会が仕切るという形で行われた。OBと現役生、職員が一体となって、これまでに培ってきた五中、瑞陵の魂、文化や伝統を、今の世代に引き継ぎ、同窓で学んだ瑞陵生としてお互いに誇りをもってこれからも頑張ろうというメッセージが伝わるとても素敵な式典だった。

感動その1:「OBが仕切る」 卒業生の中にはいろいろな分野で活躍している人がいる。当日の司会は日テレ女子アナ「後藤晴菜」さんだった。日頃テレビで見ている全国区の人気女子アナ・先輩が目の前で母校のために司会をしてくれる。これだけでも現役生のモチベーションは上がりっ

<p>近藤産興株式会社</p> <p>代表取締役 近藤 昌三 (瑞10回)</p> <p>〒457-8535 名古屋市南区浜田町1-10 TEL.052-614-2511 FAX.052-611-5826</p>	<p>特許・実用新案・意匠・商標等知財業務 エール国際特許事務所</p> <p>弁理士 間瀬 銈一郎 (瑞11回)</p> <p>〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-22-7 丸の内OSビル4F TEL.052-959-4520 FAX.052-959-4522</p>	<p>洋菓子・銘菓製造販売 名古屋フランスcorp株式会社</p> <p>会長 服部 幸三 (瑞14回)</p> <p>〒470-0112 愛知県日進市藤枝町西外面16 TEL.0561-73-4600 FAX.0561-75-4545 http://www.nagoyafrance.co.jp</p>
---	---	---

ばなした。女子高生は「かわいい、顔小さ〜、素敵・・・」等々、男子学生も「・・・、してください」というアナウンスによる注意がある度に、親衛隊のごとく声をそろえて「は〜い!」と低い声で返事をする。そのやりとり全てに心が和んだ。休憩時間には、後藤さんを囲んで、話をしたりしていたが、写メをとったり、握手をせまったりというような生徒は皆無で混乱はなかった。「自由、自主、自律」を校風としている様子がそこにも見て取れた。変に拘束せず、思春期の思いに寄り添いながら、ということ強く感じた。そして生徒もそれに答えることができていた。休憩時間に恩師に挨拶を・・・ということで、突然、私が座っている席の隣に後藤晴菜さんがやってきた。ラッキー! 遠巻きに生徒がこちらを羨望の眼差しで見ている。思わぬ偶然、数十センチという至近距離で目の当たりにできる幸運にドキドキしてしまった。握手をお願いしようか? と思ったが、生徒が我慢しているのにそれは・・・と思いとどまった。でも「素敵な学校ですねえ、シュウイチ見てました!」と話をさせてもらった。すると「シュウイチ!」というおきまりのポーズ、人差し指1本立てて円を描くポーズをしてくれた。

感動その2:「杉原千畝の曲完成! ライチヤス・アマンダ・ザ・ネイションズ〜『命のビザ』を作った男〜」、が瑞陵高校吹奏楽部創部50周年を記念して作られた。作曲者は「清水大輔」、今人気の作曲家だ。作曲にいたる経緯について彼は次のように述べている。杉原千畝氏先にはありきではなかった。創部50周年を記念して「愛知五中・瑞陵高校に相応しい曲」を創るという漠然とした依頼だった。相応しいというのが一番難しい。いろいろ悩んだが、おおらかな校風の中に流れる「自由」に着目し、「自由であるからこそ、進んで良心に縛られた勇気のある人、杉原千畝氏が頭に浮かんだ」、そして彼をテーマに曲を書きたいと思った。イメージがまとまってくればくるほど、瑞陵生に愛される曲になると思えた。そして、なってくれることを願っている。当日は、吹奏楽部によるお披露目演奏もあった。目を瞑って聴いていると、杉原千畝氏の葛藤とそこに至る決意、そして、人として正しいことをやり遂げた安堵感が伝わってくるような気がして涙が流れた。

感動その3:「OBによる応援歌と応援の披露」 現在は応援団がなくなり、応援歌「ああ若人の血は燃えて」が歌われる機会がなくなっている。でも、後輩に自分たちの思いを伝えたいと、70歳前後であろうか? 50年前の応援団が再結成された。学ランを着込んで、はちまき姿の5人が壇上に上がり、そして歴代校長、OBを起立させ、みんなで歌ってくれ。その後、応援歌の一番を生徒と共に歌い上げた。歴代の校長や、昔、勤務していた職員も懐かしそうに歌っている姿が印象的だった。OBと現役が共に応援歌を歌い上げる姿はとて新鮮だった。その後、現役生へのエールということで、応援の型と共にエールが披露された。一拍子、二抽子、三拍子、三三七拍子と総立ちのまま、みんなで手拍子を打った。声を上げた。応援に参加する生徒

の顔も素敵だった。生徒の誰もが、瑞陵生でよかったと感じているように見えた。OBから伝統と瑞陵生としての誇りを引き継ぐ儀式、素敵だった。

感動その4:先輩からのビデオレター「連綿と続く瑞陵魂、そのリレー」 卒業生の功績や卒業生からのメッセージがビデオレターとしてまとめられていた。制作ももちろんオール瑞陵卒業生だ。放送関係に努めている人、金澤知子(43回)、日テレディレクター、今井とおる(43回)、構成作家、のみみちこ(48回)アニメ脚本家、児童文学作家の三人が全面協力して創ったそうだ。出演者は、江戸川乱歩、杉原千畝、西塚泰美、・・・パンサー向井(向井慧)・・・個性あふれる瑞陵魂は、過去だけでなく現在にも脈々と受け継がれているという設定。多種多様な場で活躍する卒業生を、当時の記録やインタビューで追っている。ロックユニットZABADAKの(故)吉良知彦が瑞陵高校をイメージして作曲した「学校」という曲をBGMとして使用。「刮目せよ、高校は大学の予備校ではない」、「リレーのバトンを受け取るのは、これからの未来を担う君たちだ!」というメッセージが踊る。現在の毎日新聞社長、科捜研で活躍しているOG、皆同じように口にするのは「自由、自主、自律、今できることを果敢にチャレンジしろ!」というメッセージだ。江戸川乱歩が謹慎の第一号であったというエピソードや、パンサー向井の内緒話、「食物科の女の子がかわいかったので、いつも食物科近くの遠い方の駐輪所に自転車を置いていた」「高校時代は、チャ髪にしていたが先生は何も言わなかった」「進路懇談の際、芸人になりたいと言って、母を慌てさせたが、担任は面白い!と喜んでくれた。そして駄目ならブロンコビリーでいいな!と訳の分からないことを言ってくれた」、思春期に寄り添ってくれる瑞陵の校風、生徒を信頼してくれる校風に感謝しているというメッセージが紹介された。他にもいろいろな卒業生の武勇伝が報告されるが、その時代はその時代の実事、当時の思いとして口にしてもらってよい、伝えてもらって良い、どんなメッセージを伝えてもらっても大丈夫という現役生への信頼感のようなものを感じた。

感動その5:水澤心吾による一人芝居「決断命のビザ〜SEMPO杉原千畝物語〜」 が最後に上演された。たった一人の決断で六千人の命を救った。世界に誇ることのできる人道的行為を行った我らの先輩。瑞陵魂。けれど迷いがなかったわけではない。妻や子の命の安全が脅かされる心配もあった。でもたった一人の決断で世界を変えた。そんな先輩の功績から、「決断の大切さ」と「勇気」を学ぼう。先輩の勇気を引き継いで欲しい、そんなメッセージが発信された。素敵だと思った。

※愛知県立港特別支援学校長の各務泰氏は、式典・イベントに来賓として出席され、その様子を「校内職場新聞」(A4版)に記されました。全文の転載を快諾していただいた各務氏に深く感謝いたします。

あのバトンを受け取るのはあなた



野間 美智子 (瑞48回)

西から近づく台風と低気圧の影響で、その日は予報通り、朝から強い雨が降り出していた。スーツケースをゴロゴロと引きながら「なにも今日じゃなくても」と恨めしい気持ちで空を見上げる。愛知県立瑞陵高校百十周年記念式典。在校生や参加者の足下を思うと気鬱になる。私もその参加者の一人で、東京から帰省していた。

「式典で流す、OB・OGからのビデオレターを手伝って欲しいんだけど……」

知姉さんからそんな風に頼まれたのは、式典の二ヶ月前だった。「知姉さん」とは先輩の金澤知子さんのことで、現在は日テレ系列の制作会社でディレクターをなさっている。知り合ったのは三、四年ほど前、西郷孝先生が上京なさった際、食事をしたことがきっかけだった。何度か一緒にお酒を呑み、以来、尊敬する先輩の一人。その知姉さんからのお誘い。新橋で焼き鳥をごちそうになった。おいしかった。なんという前払い！ ああ、これはもう断れない。

話し合いの中で、まず決まったのは「現役生のためのメッセージ」にこだわること。自分が高校生を振り返ってみると、平井太郎（江戸川乱歩）先輩も杉原千畝先輩もすごいけれど、偉大すぎて少し遠い存在に思えてしまう。でも、現役で活躍している先輩方を知れば、将来を見つめる力になるかもしれない。この見解は大元の依頼主である西郷先生とも一致していた。

早速、誰にインタビューするかを決め、メールを送ってほしい、写真や資料を借りる段取りをつけていった。ビデオレターの設計図とも言える構成台本を書かれたのは、知姉さんの同級生で構成作家としてご活躍の今井とおるさん。前述の平井先輩と杉原先輩はもちろん、愛知万博事務総長・中村利雄さん、毎日新聞社長・丸山昌宏さん、時代劇研究家・ペリー萩野さん、アルペールビル銅メダリスト・河合季信さん、お笑い芸人・向井慧さんなど13名を、「過去から未来へ」バトンをつなぐようなイメージで作り上げていく。知姉さんが、仕事の合間に徹夜して編集した映像に、今度はスタジオで声を録音する。ナレーションは百十周年の式典でも司会を務めたアナウンサーの後藤晴菜さん。まさに瑞陵生の、瑞陵生による、瑞陵生のためのフィルム。連綿と続く瑞陵魂を感じて、そんな素敵なもの作りに携われたことにうれしさを覚えていると、「世に知られてなく

ても、がんばってる人はいるよな」今井さんがボソッとつぶやいた。

降りしきる雨の中、濡れそぼって瑞光館に到着する。敷き詰められたパイプイスやプラスバンドの練習が目に入り、式典前の独特な空気で満たされていた。同窓生や在校生が入場し式典が始まる。来賓方の挨拶などプログラムは進み、緊張しながらビデオレターの出番を待つ。私はある意味「DVDプレイヤーの電源を入れるために東京からやってきた」のだ。失敗は許されない。震える指先で電源を入れると、いよいよ、映像が大スクリーンに映し出された。



上映中、さまざまな先輩のインタビューに、会場の反応も上々だった。感嘆の声が漏れたり、笑いが起きたり。本番前に何度も見直したフィルムだが、瑞光館で見られたのは役得だった。

著作権や肖像権の関係でこの式典に参加した人だけが見られるビデオレター。在校生のみなさんにも概ね好評だったようで、知姉さんと一緒にほっと胸をなで下ろす。最後のエンドロールに制作に携わった五人の名前が出ると「全員、瑞陵生なんだ」という声が聞こえて、心の中で思わず「うふふ」と微笑んでしまった。

そのとき、ふと思った。私たち瑞陵生が集まれば、いろんなことができるんだ、と。名を成した人も、そうでない人も、成功しても、失敗しても、高校生活にいい思い出があっても、なくても、みんな瑞陵を卒業して、社会の一員としてこの世界に生きているんだ、と。それがどのぐらい尊いことなのか、言葉にするのは難しいけれど、人生の中でたった三年間という短い間だけれど、それは、確実に存在するんだ。そう思った。

帰り際、濡れた木々の緑が冴え冴えと青く見える。雨はいつの間にか止んでいた。

(作家 アニメ脚本家を経て、児童文学作家へ。第一回小学館ジュニア文庫小説大賞受賞。代表作「さくらドロップ」シリーズ)

第26回親睦ゴルフ会のご報告

ゴルフ会幹事 斎藤 純 司 (瑞20回)

開催日の5月3日は、雨模様の週間予報。昨年の110周年記念ゴルフ会も同じ5月3日で、前日予報では雨が心配された予報であった。2年続きの雨模様の下、開催判断を新人幹事の私がすることになった。

前任幹事木村鍾治さん(18回)からバトンを受け、初めての会となる。この会は世代を超えた交流ができるもので、より多くの同窓会員の参加を得られればとの思いで幹事役をスタートした。過去のゴルフ会、または110周年記念会に参加した方々には手紙またはEメールで、それ以外の会員には同窓会のホームページを通じて案内した。結果、上は5回生の83才、下は33回生の55才の20名の参加申し込みがあった。

当日は前日までの雨もあがり、芝生、木々の緑がまぶしい藤岡カントリーコースに都合で欠席となった1名を除く19名が参加した。第1組目は関東から参加くださった中村同窓会会長を含む17回生中心に、2組目は5回生と二人の女性と幹事、3組目は18回生中心に、4組目は20回生中心に、5組目は32回生を中心とした組み合わせでスタート。みなさん、高校時代の思い出、現在の生活での話題と同窓会ならではの楽しいゴルフ会となった。

順調に進んだプレー後のパーティではプレーを振り返っての話題で盛り上がったところで、青天井のダブルペリア方式で計算された成績を発表。日頃の実力を十分に発揮できなかった下位のかたから順次上位のかたへと、それぞれのアウトスコアが発表され、皆さん手元のスコア表と見比べる中、インスコアも発表された。最後に優勝者の確定で大いに盛り上がった。年齢差28才でも競うことができるコースでのドラコン、全員にチャンスのあるニアピンも行われ、それぞれフラッグに書かれた氏名を順番に発表することで各組での腕前状況が披露された。賞品は各順位賞が参加費から配分したクオカード、ドラコン・ニアピンが「鬼まんマドレーヌ」、参加賞として全員に「インスタント麺の詰合せ」、さらに女性のベストグロスに貴腐ワインが贈られた。この三点の賞品は、会員の有志からの寄贈で大変にありがたかった。

優勝した33回生の小森敦夫さんからは、同窓の先輩の方々との関係を披露し「こうした交わりがいろいろな面での勉強となるので、今後も参加していく」と幹事にとってありがたい挨拶があった。最後に中村利雄会長からは「同

窓メンバーが集う良い機会、今後も定期的に開催してほしい。併せて、8月26日(日)の総会、さらには五中卒業生で『命のビザ』で知られる杉原千畝先輩の功績を顕彰する施設が構内正門西に完成する予定」との挨拶があった。最後に全員で記念撮影して散会した。

会長の挨拶にもあるように同窓のいろいろな立場のメンバーが集い、語り合うことで生活の幅が広がる機会とするために今後も開催していきたい。毎年、5月と10月の2回予定しますので、多くの同窓メンバーの参加をお待ちします。今後、新たに参加を希望される方からの同窓会事務局宛てへの「氏名、卒年、連絡先(携帯、Eメールアドレス)のご連絡をお待ちしています。

なお、主な順位成績はつぎのとおりです。

順位	氏名(敬称略)	卒業期
優勝	小森 敦 夫	33回
準優勝	宮崎 雅 博	20回
3位	荒川 英一郎	18回
5位	成田 元 人	32回
7位	近藤 正 宏	18回
10位	丹羽 基 紀	32回



第27回親睦ゴルフ会のご案内

今回の親睦ゴルフ大会は、10月24日(水)にベルフラワーCCで行います。会費15,000円。

問い合わせ先 瑞陵会事務局052-851-7141(森)

ペリー荻野さん講演会

平成28年度瑞陵会講演会で講師をお願いしたペリー荻野さん(瑞陵33回)の講演会が名古屋で行われます。

演題：ペリー荻野の大河ドラマと戦国武将の魅力

日時：2018年9月18日(火) 13:30~15:00

場所：朝日ホール(中区栄1、朝日会館15階)

会費：3,942円(30歳以下2,862円)

お申し込み・お問い合わせ

朝日カルチャーセンター TEL052-249-5553

滝山獣医科病院

獣医学博士 滝山 昭
(瑞16回)

〒458-0835 名古屋市緑区鳴海町上汐田220
TEL.052-621-0179 FAX.052-621-2020

つばめ自動車株式会社

代表取締役社長 天野 清美
(瑞17回)

〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目21番17号
TEL.052-201-8031(代) FAX.052-201-8036
<http://www.tsubame-taxi.or.jp>

株式会社 東海流通システム

代表取締役 青木 偉 晃
(瑞17回)

〒498-0021 愛知県弥富市鯛浦町未新田21-67
TEL.0567-55-9121 FAX.0567-67-2500

関東瑞陵会 第13回総会の報告

関東瑞陵会 副会長 佐藤正徳 (瑞29回)

清明、春の日差しが、そこかしこに満ち溢れる平成30年4月7日。発足以来最多163名の熱き瑞陵魂が東京・市ヶ谷に集い、第13回関東瑞陵会20周年総会が開催されました。会長挨拶後、「新役員」と「関東瑞陵会会則」が決裁され、新会長による新たなスタートが宣言されました。

懇親会は乾杯の発声と共に和やかに始まり、昨年行われた110周年の記念式典のビデオや、式典用に作成された瑞陵生たちの活躍を描いた「ビデオレターの上映」、有志による三線とギターの軽やかな音色が場を華やかにしました。そして恒例の応援団による校歌、応援歌、エール、逍遙歌と、会場が一体となり大いに盛り上がりました。

今回の最年少参加は19歳の大学生！今後も諸先輩は無論の事、卒業直後の同窓生やパリの現役が愉しく集まれる会を目指して参ります。今回は関東瑞陵会20周年を記念して「瑞陵魂」記念ピンバッジを創り参加者や母校の卒業生にも配りました。

次回の総会開催は2020年4月、東京オリンピックの年です。連綿と受け継がれる瑞陵魂はそのままに、新しい時代をスタートさせます。総会は隔年の開催ですが、四季折々各種イベントを催します。是非お誘い合わせの上ご参加ください。

* 活動の内容は瑞陵会HP・YOUTUBEでもご覧いただけます。

第13回総会 式次第

- ・開会の辞 (司会/橋本淳:42回・谷口由佳:45回)
- ・会長挨拶 (廣田健一:16回)
- ・来賓挨拶 (瑞陵会 会長 中村利雄:17回)
- ・役員改選 (新会長 安島政実:18回、副会長 稲葉賢治:19回、副会長 佐藤正徳 29回)
- ・瑞陵会会則制定
- ・活動報告
- ・乾杯 (荒木郷兵:16回)
- ・創立110周年記念ビデオレター (金澤知子:43回・野間美智子:48回)
- ・三線演奏:「瑞陵魂」(演奏 山下富貴雄・山田幸一・作詞 山田幸一:29回)
- ・総務幹事、年次幹事紹介・出席者自己紹介 (安島政実 会長)
- ・ちょっと嬉しい抽選会 (橋本淳42回・谷口由佳:45回)
- ・参加者全員記念撮影
- ・応援歌・校歌斉唱・エール (稲葉賢治19回:安藤正史:29回 関谷健:45回)
- ・閉会の辞 (副会長 佐藤正徳:29回)



寄稿

五中老翁のつづやき
制服考

安藤 實 (五中36回)

畏友故鳥居大君の執念だった五中故趾の石碑が完成し、七十数年ぶりに母校を訪れた。先ず目にしたのは、校門前の「大矢洋服店」の看板だ。ここで制服制帽を買い整え、憧れの五中生徒を自覚した日の悦びを思い起こした。

ここで、「制服」について改めて考えてみたい。

「白線流し」は末永い友情の証として、学帽の白線をつなぎ宮川へ流す、戦前からの行事だ。共学の今でも女生徒のスカーフを交えて、その伝統は纏綿と受け継がれ、飛騨高山の春の風物詩として広く知られている。

名古屋でも、昔の旧制中学や女学校の制服には、それぞれに個性があった。各校生徒はそれを誇りとして着用し、地域の人はそれを温かく見るなど、制服文化が街に定着していた。各校の制服は、一中は両袖口の緑の横線、明倫中学は左上腕部の「明」の丸文字の校章ワッペン、県一高女はスカート裾上の黒線、市一高女は左上腕の「市一」の菱形ワッペンとスカート両脇に縦の白線など、それぞれの伝統として誇示していた。

戦後の学制改革を期に制服が画一化し、特に公立校の個性が消えたのは寂しい。菊里のスカートの縦の白線と明和の黒線だけは生き残り、街で会う度、枯木爺の胸をキュンとさせてくれるのが嬉しい。

さて我が母校、五中の制服の主張は、学年を示すAKS T Nの襟章と両袖に光る袖章だ。袖章は「草薙剣」三振交又模様の金ボタンで、袖口か



右は戦時中の陶製ボタン

ら5cm上に着用した。これが当時、女学生達の憧れの的であったと仄聞している。

後悔の「たら・れば」は禁句だが、もし学制改革の折、五中の袖章が継承されていたならば、石碑建設の原点ともなった母校喪失の悲壮感は薄らぎ、瑞陵性を真の後輩と感じ更に慈しみの目で見ている筈だ。かように思うと、伝統を継承する上で、制服の果たす役割はきわめて大きい。

私は瑞陵発足〇〇記念の折にでも、袖章の復活を提案したい。生徒は、杉原千畝先輩佩用とおなじ袖章を身につけて、モチベーションが高まることは必定だ。

また、これを目にする往年の令嬢達の胸キュンを誘い、認知症抑制のお役に立つのではなからうか。

関係各位の真摯なるご検討を乞う。

五中・瑞陵史発掘

「五中」に赴任した漱石の愛弟子たち

— 英語教師浦瀬白雨・野村傳四と
第六回卒業生杉原千畝のこと —

鈴木 素夫 (瑞14回)

1. はじめに (要旨)

杉原千畝が外交官の道に進んだのは、彼自身の言を借りれば、二つの人生の転機があったからだという。ひとつは、「親の意思に従わず早稲田大学に入学したこと (著者注: 高等師範部英語科)」。二つ目は、「偶然に外務省の官費留学生 (著者注: 支度金、日当付) の募集公告を見て、応募、合格したこと」。私はこれ以外にも一つの転機、或いは出会いと言った方がよいかもしれないが、あったと思う。それは早稲田入学以前、即ち五中時代にさかのぼる。大正6年五中を卒業した千畝は、父親の薦める京城医学専門学校の入学試験をボイコット、白紙答案を提出、帰宅してしまった。「医者になることがイヤで」、「英語の教師になるつもり」だったからである。ではそれほどまでに千畝が英語教師になりたかったのはなぜか? そこには、中学に入って初めて英語を学び、それが好きになり、やがて得意になり、将来はこんな英語教師になりたいと思わせた経緯が必ずあったはずである。

私は創立間もない五中に相次いで赴任した、漱石の教え子で東京帝国大学英文科出身の英語教師浦瀬白雨と同じく野村傳四の存在が関係していたのではないかと推測している。即ち、千畝が外交官になるべき最初の人生の転機は、五中時代にこの二人の英語教師に出会ったこと、にあるのではないかと考えている。

2. 英語教師を目指していた杉原千畝

五中時代における千畝の勉強の様子を知る史料は少ない。僅かに残る「成績表」の中に、人物性質欄で「誠実、実直」と評価され、併せて英語の成績が良かったことが記されている。また、幸子夫人の回想の中で、交際中に「どうして外務省にお入りになったのですか」の問いに、千畝は「本当は英語教師になりたかったのです」と答えている。



杉原千畝
五中第6回卒業アルバムより

五中入学以前の小学校時代は成績は常にクラス一番で、六年の時の「通知表」は全教科「甲」である。千畝が受けたであろう五中の入学試験問題が残されているが、それを

見ても難度は高く、一定以上の能力をもった生徒が入学したのだらうと思われる。また創立当時の五中は、もともと隣接する郡部からの進学希望者及び一中の学力水準に達しない市内の受験生の受け皿としての役割を期待されていたが、第一回卒業生66名のうち11名が東大・京大等旧帝大に進学しており、今から見れば相当の学力水準にあったと推測される。

以上から想像するに、杉原千畝の五中時代の成績は、学力優秀で特に英語が優れていたことは間違いなく、だからこそ父親はこの優秀な息子を医者にしたいと考え、医学校の受験を薦めたのだらう。ただ、なぜ英語が好きになり、なぜ将来英語教師になろうと思ったかについては、残念ながら本人は何も語っていない。

3. 英語教師 浦瀬白雨

浦瀬白雨、本名七太郎は明治13年、長崎県土族浦瀬忠次郎の長男として生まれた。岡山の高卒後、明治37年東京帝国大学英文科に入学、そこで当時常勤講師であった夏目漱石と出会い指導を受ける。明治40年7月、東京帝国大学を卒業した七太郎は、新潟の柏崎中学に職を得て、二年の勤務のあと、創立間もない愛知県立第五中学校への転勤命令を受ける。この辞令の背後には、浦瀬と同郷で長崎出身の大塚末雄校長の運動があったのかもしれない。浦瀬七太郎は五中への転勤にあたってその報告のため、病気見舞いをかね、新潟から上京、師漱石宅を訪ねている。その時のことを漱石は明治42年4月2日の日記に、「朝浦瀬七太郎来る。越後より熱田へ転任也。越後の飴を御見舞に貰ふ」と記している。



浦瀬白雨
五中第2回卒業アルバムより

浦瀬七太郎と漱石の交流は英文科一年の時から始まっており、明治38年7月、七太郎が「ワーズワースの詩集」を翻訳・出版した時にさかのぼる。漱石は七太郎の依頼に応じ、「序文」を寄せている。出版の関連で言えば、浦瀬七太郎は明治44年、K・ジェローム原著の翻訳書「のらくろ三人男」を東京の出版社から出している。今回は漱石に序文を頼むことはなかったが、ここで大変興味深いことは、七太郎自身の序文の最後に、「明治四十四年二月」の日付のあとに続けて、「熱田中学にて 訳者」とあることだ。先にあげた漱石日記にも「熱田へ転任」とあり、ここでも「熱田中学にて」とあるということは、五中が「熱田中学校」に改称されるのは大正11年のことだが、すでにこの頃から一

部で「熱田中学」の名称が使われていたことが分かる。七太郎は著書を漱石に献呈するが、それを受け取った漱石は明治44年6月3日付の書簡で、「拝啓のらくら三人男愈御出版の運びに至り結構の至に候、一本わざわざ御寄贈深く御礼申上候 小生段々丈夫になり候 右迄早々」とお礼を述べている。

ところで、大学卒業後3年目いわば新米教師として赴任した五中であつたが、彼が帝国大学出身であることから、奏任待遇であつたため、学校内での序列は校長を含め総勢16名の教職員のうち三番目であつた。そして、その授業ぶりについては「愉快で面白い。そのため僕等は益々勉強した」との証言がある。一方、「六十年史」にも、「浦瀬七太郎先生は、毎年々々同じことばかり教えている中学の教師なんて実につまらんといい、いつも三十分くらい、ユーゴの「レ・ミゼラブル」を読んで生徒を喜ばせていた」とある。これなど、当時七太郎が「のらくら三人男」の翻訳と並行し、非英語圏の作品に目を向け、その翻訳・評釈を「帝国文学」に寄稿していることを考えると、「レ・ミゼラブル」のほかにも、そうした作品を生徒に教えていた可能性も考えられ、自由闊達な授業風景が眼に浮かぶ。後に赴任した旧制福岡高校でも、それを裏付けるように「飄々としてこだわらず、時に講義時間を忘れる。最も教師らしい教師」との評判が残されている。実は、浦瀬七太郎自身中学時代は、本人の言を借りれば、「5年間まともな勉強をした覚えがなく」特に「英語は苦手」で、Wednesdayの綴りも知らなかった。それが原因で熊本の第五高等学校の受験に失敗、翌年岡山の六高に入学することになる。浪人中に内村鑑三の「外国語之研究」に感化され中学時代のリーダーに出てくる単語を徹底的に暗記する方法で苦手の英語を克服したのである。こうした彼の経験と英語に対する思いは、中学で初めて英語を学んだ杉原千畝に多大な影響を与えたであろうことは容易に想像できる。

大正3年、五中を辞した浦瀬七太郎はその後長崎高商、福岡高校、九州大学と籍を移し、その間欧州留学を行い、専門の英文学の研究を深めるとともに、詩人としても、また「九州文学」の編集者として芥川賞作家を輩出するなど、多方面に功績を遺すことになる。一方、漱石への敬慕は終生やむことなく、上京の折は必ず漱石宅を訪問、漱石没後には追悼文「夏目先生を想ふ」を「帝国文学」に発表している。

4. 英語教師 野村傳四

野村傳四は明治13年、鹿児島県肝属郡高山村に、七人兄弟の末っ子として生まれた。一高卒業後、明治36年東京帝国大学英文科に入学、浦瀬七太郎より一年早く漱石の薫陶

を受けることになる。野村傳四は漱石の教え子の中でも最も可愛がられた弟子であり、その交流は単なる師弟関係を越えて、親戚縁者のような親密さまで感じられる。例えば、傳四の結婚にあたって漱石は特別な祝儀品を傳四に贈っているし、会葬の依頼、借家探しの依頼、さらには自分の給与の受取りまで頼ん



野村傳四
五中第6回卒業アルバムより

でいる。明治37年7月20日付書簡に「俣野大観先生卒業彼云ふ訪問は教師の家に限るかうして寝転んで話しをして居ても小言を言われないと僕の家にて寝転ぶもの曰く俣野大観野村傳四・・・」。これからも傳四の遠慮のない振舞いが察せられる。もちろんそこには相互の信頼関係があつた訳で、明治43年漱石が修善寺温泉で倒れ生死の淵をさまよつた時、傳四は真っ先に駆け付け、献身的な介護をつづけた。そうした二人の関係もあつて、漱石が傳四に送つた手紙・葉書は63通の多きを数える。

明治39年7月、東京帝国大学を卒業した野村傳四は、錦城中学、関西中学、山口国学院中学を経て、大正4年5月佐賀の鹿島中学校に赴任する。しかし、いかなる理由があつたかは不明だが、わずか一年の勤務のあと当時五中のNo.2にあつた山本耕造とその職を入れ替わり、大正5年山本が鹿島中に、野村が五中に教頭として赴任することになる。時に、野村傳四36歳であつた。その教育方針や授業ぶりがどうであつたかは、「六十年史」にも記載はないが、杉原千畝と同じクラスで、後に文芸評論家として活躍した本多顕彰が貴重な証言を残している。即ち、「中学五年生の時に、漱石門下の野村傳四氏が教頭として赴任してきて、学校の行き帰りに同氏から漱石の話聞いた」。さらに別のところで「私は、漱石に最も愛されたと伝える野村傳四氏に中学時代に英語を教わつたし、同氏から漱石の蔵書であつたというスティーブンスンの「プリンス・オットー」を借りて読んだ、(漱石の)逸話を聞かされたのはもちろんのことである。漱石のもう一人の弟子であつた浦瀬白雨氏もまた中学の英語の先生であつた」と。本多は首席で五中を卒業、八高を経て、恩師と同じ東京帝国大学英文科に進むことになる。

こうした体験が本多顕彰だけだつたとは考えられず、接した生徒達皆に持ち前の気さくさから声掛けしていただろうか。傳四の勉学へのスタンスは、その著書で「一日も早く入学試験というものを片付けて、自由な高尚な方面へ頭を向けるようにならねばならぬ」と述べているように、自由で高次元の思考を求めていた。後に校長とし

て赴任する奈良県立桜井高等女学校では「自由を愛する個性豊かな人間の育成に努めるとともに、各種スポーツを積極的に奨励した」とある。そうした考え方は五中勤務時からあったに違いなく、「六十年史」にスポーツに積極的でなかった大塚校長に対し、「ある先生はスポーツをより奨励すべきことを校長に進言しつづけたが、ついに容れられず五中を去っていった」とあるのは、間違いなく野村傳四のことであろう。

大正8年、五中を辞した野村傳四はその後奈良の桜井高女、五条中学の校長を務めたあと、昭和10年奈良県立図書館長に就任する。その間民俗学に関心を持ち、柳田国男と共同で「大和の垣内」「大隅肝属郡方言集」を出版、さらに故郷を想って作った「鷹が渡る」は写生文の名作として多くの中学校、女学校の教科書に採用された。今も地元ではこの作品の保存・伝承の活動が続いているという。

5. おわりに

漱石がそうであったように、帝国大学英文科出身者の就職口は殆どが地方の中学校の英語教師であった。漱石の教え子たちも全国に散らばっていったが、そのうち漱石と交流の深かった浦瀬白雨と野村傳四の二人が我が母校「五中」に赴任していたことは大変興味深い。二人が赴任した時期はちょうど杉原千畝の在籍時と重なる。そこで千畝が英語教師をめざすようになったのは、彼等の影響があったのではないかと仮説をたてたが、残念ながら今回は推定の域を出ず、決定的な証拠は見つからなかった。引き続き調査・研究を進めたい。

※本稿は三品耕作さん（瑞47回）からの情報提供によって会報に掲載する運びとなりました。三品さんのご尽力に感謝いたします。

本稿の著者 鈴木素夫さんの講演会を計画しています。
 2018年11月3日（土・祝）13時から 瑞陵高校 感喜堂
 1部：講演「五中の英語教師たち」（仮題）
 2部：「皆で歌おう昭和の歌を」
 詳細は後日、瑞陵会ホームページで発表いたします。

五中・瑞陵史発掘

応援団とブラスバンド同好会創立



安島 政実

（関東瑞陵会会長 瑞18回）

1964年度 前期生徒会長・応援団長

昨年の110周年記念式典は忘れえないイベントとなった。開式直前の8月、同窓会事務局から応援歌とエールの依頼を受けた。“今の在校生は応援団も応援歌も逍遥歌も何も知らない”からという。そこで元応援団の近藤正宏君に頼み久々に瑞光館での演舞となった。冒頭からの「押忍（おっす）」の掛け声に、古い同窓生からは言霊が如き返答が響き、会場が湧いた。応援歌「ああ若人の血は燃えて」は吹奏楽部の伴奏を得て、半世紀の眠りから潜竜が蘇った。「炎き風巻き 雲を呼ぶ」かのように。

この伴奏は私の琴線に触れた。54年前、応援団とブラスバンド愛好生徒は卵の殻を外からそして中から叩き合い、機を得て相応じるまさに啐啄同時の好機を生かし「ブラスバンド同好会」を設立した。それが今の吹奏楽部に繋がった。

1. 生徒会としての応援団活動

「生徒会長が応援団長を兼任する」と生徒手帳に記されていた。生徒会活動は一般には関心が薄れた時代だったが、後に学生運動をされた先輩のKさん、民青のMさん、キリスト教徒のHさんとはよく議論し学びが多かった。生徒会担当のK先生とは常に「学校VS生徒会」の関係だった。体育祭でのファイヤーストームは解禁が出来なかったが、バイク通学は継続できた。生活指導で倫理・社会のN先生とも相対する事が多かったが、修学旅行でのルール違反からの退学問題では生徒達をかばってくれた。私は時折授業に出なかった為、ある日、石川軍二校長から呼ばれた。校長室の扉の背の高い事！「朱泥の茶碗は年を経るごとに味がでますね」、とお抹茶を振舞われ、お咎めは一切無かった。瑞陵には名物の先生が多くおられたが石川校長には「人の

瑞陵会会長

（公財）全国中小企業取引振興協会会長

中 村 利 雄

（瑞17回）

〒104-0033 東京都中央区新川2-1-9

渡辺歯科

院 長 渡 辺 龍 彦

（瑞18回）

〒470-1151 豊明市前後町善江1720-8
 TEL.0562-97-7314 FAX.0562-97-8214
<http://www.watanabesika.net>

栗田敬八税理士事務所

所 長 栗 田 敬 八

（瑞19回）

〒454-0912 名古屋市中川区野田1-193
 TEL.052-351-0251 FAX.052-352-8268

心の在り方に価値がある」と生涯忘れえぬ教えを受けた。

さて、応援団は瑞陵生を鼓舞するのが役割と定義付け、「応援委員会」的に進めようと決めた。そこで生徒会の役員に応援団員兼務になって貰った。同期では前述の近藤君は生徒会書記で森川礼君と同じ軟式野球部、副会長の服部利昌君は水泳部、安達健君は卓球部で大太鼓担当だった。

同時にスタートした「女性バトンガール部」は後輩で食物科の旭美千子さん、牧野千恵子さん（共に旧姓）等5名の立候補があってバトン演技を校内に広げていった。ブルマーならぬテニススカートを穿いたので当時はかなり目立っていたと思う。応援団は体育祭の前の応援や歌唱指導、昼休みのフォークダンス、生徒会時には各教室を訪問と校内を駆け回った。生徒会室は応援団室でもあった。運動場と教室の間に在って、ミニ感喜堂のように威厳のある側鉄筋の建物だった。そこにガリ版刷りの輪転機や、応援団団旗、大太鼓が同居していた。応援団の訓練は厳しかった。先輩の網島了省さん、木全幹雄さんから演舞の空手の型を教わった。エールは100M先迄届く様にと声がかかるまで練習した。「押忍」は耐え鍛え、人を押し上げて応援する事と教えられた。夏休みは野球の応援やインターハイの壮行会もあって返上した。団員間では新作の難しい「空手 三三七拍子」を競って演舞した。かくして応援団は生徒会活動と相まって、次の19回生加藤健一生徒会会長、稲葉賢治運動常任委員会委員長に引き継がれた。

2. ブラスバンド同好会 創立

応援団の野球応援は一仕事だった。自家用車もない、自治だから学校にも頼めない、で学生や家族のサポートで球場への荷物の移動から撤去に至るまで全て自前でやった。

灼熱の下で、黒の詰襟り（学ランという言葉は無かった）が汗で白くなった。球場には、実家から一貫目の氷塊を何個も運ばせ、バケツにいれて涼をとった。

ある日、熱田球場で中京商業との戦いになった。試合前に双方の「団旗の交換儀式」がある。相手は隆々たる軍隊のような応援団、ブラスバンド付きで艶やかにまかり出る。こちらも気力は負けじと対応するが、太鼓一筋ではどうしても迫力に欠けた。

「何とかブラバンを設立出来ないか」と思案を巡らせていた時、19回生の長谷川邦男君から中学以来の「ブラスバンド出身者で同好会を作りたい」と話が持ち掛けられた。そこで急遽学校側に折衝し、生徒会として設立の提案書を出すことになった。学校側は大反対だった。頼りにすべき顧問の先生方は皆逃げてしまった。「資金の目途が付かない、騒音がでる・・・」という理由だ。しかし、自由、自主、自律の瑞陵生はこういう時に大きな力を発揮する。先ず職員会議に抗議文を出し、当面の楽器は古いものをかき集める事、場所は生徒会室で、楽器も保管する、三年間は同好会として活動する事、等の再提案をした。長谷川君を始め創立グループの並々ならぬ熱情が通じて最後には学校側が認めた。「ブラスバンド同好会の設立」となった。当時は殆どの運動部は、旭丘、明和と定期的な活動として「三高戦」をやっていたが、瑞陵がいち早くブラバンを立ち上げ皆は鼻が高かった。同好会は応援団と共に熱田球場、刈谷球場での応援、又野球ばかりでなくホッケーのインターハイ壮行会、文化祭、体育祭など各種のイベントの機会に共同で活動してきた。後にその三年間の存続条件をクリアし、部として昇格したと聞いた。嬉しかった。それから50年、吹奏楽部として大きく育ち昨秋の110周年イベントでは有難くも応援歌の伴奏もして貰った。「命のビザ」を作った男、「ライチャス アマング ザネイションズ」はそんな昔の想い出を胸いっぱいにして聴かせて頂いた。

瑞陵は、自治を重んじる豪放磊落の校風。なにか問題が起きても逃げない、そこにステイしてやろうと思った事とことんやってもものにするという伝統だ。今般の式典に参加して、しみじみと瑞陵生で良かったな、やってきて愉しかったなと回想させて頂いた。私にとって瑞陵時代はいかなる場面を思い起こしても極上の時であったと、心から感謝している。

最後に、あらためて旧ブラスバンド部が嘗々と継続してきた50年間の尽力に声援を送りたい。そしてこの会報に接する在校生諸君には、応援団の復活をお願いしたい。伝統ある演舞や応援歌、逍遥歌を葬ってはならない。この動きは必ず皆さんにも新しい価値を生み出してくれると信じている。

<p style="text-align: center;">司法書士グリーンフォーラム</p> <p style="text-align: center;">司法書士 林 勝 博 (瑞19回)</p> <p>〒458-0036 名古屋市緑区六田一丁目200番地 TEL.052-624-1885 FAX.052-621-1384</p>	<p style="text-align: center;">プレス金型、専用機の製造販売 ムツミ工業株式会社</p> <p style="text-align: center;">代表取締役 近 藤 哲 典 (瑞22回)</p> <p>〒462-0866 名古屋市北区瑞璃光町5-1 TEL.052-913-2111 FAX.052-913-2100</p>	<p style="text-align: center;">生命保険・損害保険代理店 株式会社エイチ・ケイ・コーポレーション</p> <p style="text-align: center;">代表取締役 社 長 加 藤 秀 雄 (瑞25回)</p> <p>〒352-0006 埼玉県新座市新座1-13-19 TEL.048-485-1483 FAX.048-479-7701 Email katochan@df6.so-net.ne.jp</p>
--	---	---

寄稿

Work Life Integration で30年

誰にも似ていない人生



岩井 順子 (瑞33回)

高校進学を控えた中学生の私は、親や担任の勧めで瑞陵高校という学校があることを初めて知った。残念ながらあまり乗り気ではなく、美術系の高校に行ってデザインを学びたいと主張したが、お前は

きっと気が変わるからと周囲の大人から猛反対された。そしていとも簡単に志を曲げたため、私は無事に瑞陵高校に入学することができた。1977年の春だった。

高校時代は絵を描き、写真を撮り、デッサンや構成を学び、音楽を聴いてインスピレーションを得た。本当に好きなことに没頭した3年間であったが、良い生徒であったとは言いがたい。学校の勉強はそこそことどめ、自分の世界に思いを馳せながら、美大に進む準備をした。

瑞陵高校は当時男子生徒の方が多かったように記憶する。そして、良くも悪くもみんな自立して見えた。子供じみたヤンチャをする不良もいなければ、大人の言いなりで行き先を失ったような生徒もいなかった。粋がっていた人も、真面目そうな人も、みんなそれなりに大人だった。先生がたも程よい距離感で、過干渉でも放置でもなく、うまく接してくださっていたように思う。

高校生の私はどちらかという外見は大人びた人を装っていたものの、親や社会やいろんなことにしょっちゅう苛立ち、中身は甘えの塊だった。一方、周囲のクラスメートは実に普通の高校生に見えたが、大人っぽく分別をわきまえた人たちだった。周囲の友達や大人とうまくやりながら、それぞれが自分らしい高校生活を見つけているように見えた。私はいつも内心、みんな大人だなあと感心していた。

逆にいえば、自分の中の子供じみた甘えや依存心は、もうここでは通用しないのだと悟ったのもこの時期だ。1970年代後半、学生運動もすっかり下火になり、私たちの世代は「しらけ世代」と呼ばれていた。無気力・無感動・無関心が世代の特徴とされていたが、それは世間の風潮の問題であり、瑞陵の生徒の中には、前の世代の過激さとは違った形で熱気や活力があったと感じている。そのような中で育った私は、自分の中のフラストレーションは、何か違った形で消化し、アイデンティティを持たなければ、自分はただの甘ったれた姉ちゃんだと考えるようになった。今思うと、10代とは思えない成熟した考えだが、当時の学生に

は、そうでなければかっこ悪いという価値観が浸透していたように思う。とにかく、人生で初めて自分が何者かを模索する時間と機会を得たのはこの時期だった。瑞陵高校は社会や大人の価値観を押し付けることもなく、余裕を持ってそういう機会を与えてくれた学校だった。

冒頭で書いたように瑞陵高校へは特に興味もなく入学したものの、その後の私にとって10代の多感な3年間をここで過ごし、自由な環境の中で未熟ながら当時の自分としてのアイデンティティを模索したことは、非常に意味のあることだった。この経験がその後の私の人生に軸を与え、価値判断の基礎を育んだに違いないと考えている。

高校卒業後は地元の美大でデザインを学び、名古屋で就職したものの3年で仕事をやめ、結婚・出産で3年間離職。その後は独立し、当時は珍しかったフリーランスのデザイナーとして仕事を始めた。バブル崩壊直後で各社大変な予算節減の中、世の中にはまだ「フリーランス」というワークスタイルが皆無だったため、小回りがきいて費用対効果の高い人材として重宝され、不況の中でもかなり忙しい毎日を送っていた。残念ながら結婚生活はうまくいかず、やがて小学校入学前の年子の子供たちと、3人の生活が始まる。非正規シングルマザーという、いまの社会問題になっているような状況だったが、当時の本人はケロリとしたものだった。

何しろ仕事は忙しく、眠る暇もなかった。夜中じゅう仕事して朝子供達を送り出してから仮眠し、午後は打ち合わせ、帰宅後は家事、子供が寝たら朝まで仕事という毎日だった。当時はまだ「ワークライフバランス」などという言葉はなかったが、ワークもライフも同時にこなし、成果をあげることに喜びを感じていたし、子供のことも必死でやった。バランスなどという概念がなかったし威張ったことは言えないが、考え悩む余裕もなかったから良かった。子供たちも私の猪突猛進な行動によく付き合ってくれて、キャンプやレジャーだけではなく、海外出張へも連れ回した。手を抜かなかつたと言ったら嘘になるので、手を抜きながらまあまあ頑張ったとおもう。それでも今になって成人した子供に当時のことを聞くと色々不満もあったようで、申し訳ないと思うが、理解を示してくれている。とにかく必死だったので、脇目も振らず毎日を過ごした。周囲の家庭や、正規の仕事で成長して行く業界の人々と自分を比較することなく、自分のやること、やらないことを振り分けて前に進んだ。出世欲とか、組織の中での身の振り方とか、そういったストレスからは解放されていた一方、時々他の事業者から嫌がらせをされたり、いきなり請求額3割カットを押し付けられたり、身におぼえない悪口を言われたり・・・一匹狼ゆえに晒される世間の風に落胆したりもし

たが、何かしら自分の軸があったため、それらは一過性のことで自分のビジョンを妨げるものではないと解釈することができた。当時の目標は「きちんと仕事をして継続的に収入を得ること」「子供に苦勞をさせないこと」この二つだけしか考えなかったため、外野のヤジは極力気にしなかったし、仕事を選ばず、無理してでも大抵のことをこなした。今思うと自分でも、あの強さはどこから来たのかと思う。

瑞陵高校時代から一貫して自分に与え続けた戒は「唯一無二である」ということだった。もちろん高校時代の自分にはこんな言葉では上手く語れなかったと思うが、終始一貫して自分は類例のない自分であるということを否定してはいけなと考えるようになった。だからいつも、どのような状況になっても「自分はどうかあるべきか」という質問を繰り返して、物事に対処した。他人と比較したら足りないところだらけだけど、自分のできる最大のことをやるしかない状況だった。人生最大の頑張りどころを超える際にこういう考え方ができたのは、きっとあの頃模索した自分が基礎になっているからに違いないと思う。あのときに与えられていた程よい余白と空気がそうさせてくれたのだ。

ここまでが私の高校・大学を卒業後、ビジネスパーソンとしての第一幕である。この時代はシングルマザーとして、子育てと仕事の両立で終わる。大変な思いをしてきたが、結果的にはまあやり通した。仕事はその後も継続し、子供達も成人して無事それぞれの道を歩んでいる。

子供たちが高校を卒業する頃、某クライアントから、東京に来て新規事業の立ち上げに参画して欲しいという要請があった。最初は東京-名古屋間を通っていたが、クライアント側の要望が大きくなり、東京への移住を決意した。他の名古屋の顧客を全部断ることになるが、地方都市で燻るよりもこの機会に東京に出るべきだと心が高鳴った。40半ばになってから女一人で新天地に繰り出すことに周囲は驚いて心配したが、本人はあまり深く考えていなかった。

そこに自分がやるべきことがあるなら年齢や土地は心配の要素ではなく、自分がこの先何ができるのかということだけが問題だった。ある同業経営者は、そう行った私の潔さが「男前」だとふざけて讚えた。

子供たちの高校卒業にタイミングを合わせ、結果的に3人とも東京に引っ越すことになった。このように、私の第二幕は東京が舞台だった。主役はすでに子供達ではなく、私自身だ。子育てをほぼ終えた私は、ようやくお金のためではなく自分のやりたい仕事を選んで進める体制になった。人脈の無い東京でフリーランスの仕事をするのは並大抵では無いが、上手くお声がかかって組織的な仕事に加わるようになった。一人でできることは限られてしまうが、組織として大きな仕事に関わることの面白さが体感できた。

東京進出後は仕事の幅が格段に広がった。私の仕事はもともとデザイナーだが、企画力に評価を受け、デザインという枠を超えて、様々な立場で様々な課題に携わるようになっていた。専門は色や形のデザインではなく、もっと上流のビジネス領域、消費者のニード/インサイトの分析から商品コンセプトや新規事業・サービスの設計などを業務の中心として来た。端的にわかりやすく言うと、ビジネスやサービスのデザインである。

東京に移住して間もなく、米国の大手デザイン戦略ファームZIBAから声がかかり、東京オフィスでクリエイティブディレクターとして仕事をさせていただくことになった。実に25年ぶりの正規雇用である。そして2012年には米国ポートランドの本社に勤務となる。米国勤務での私のミッションは、デザインに関わる定性リサーチの手法を持ち帰り、東京オフィスで新規のリサーチ部署を立ち上げることだった。しかし、この海外勤務中に私はもっと大きな課題を認識することになり、私自身のはっきりとした方向性を見出す機会を得るに至った。当時の日本には、デザインを経営課題解決に活用するという考え方は皆無であっ



だが、米国では当然のようにデザイナーが企業戦略に関わるプロジェクトを担当している。デザインはカッコいいものを作るのがゴールではなく、様々な課題を解決することがゴールなのである。日本との大きな違いを目の当たりにした海外勤務だった。

帰国後は予定通りリサーチの部署を立ち上げ、機能させることに専念した。この頃、日本のデザインファームは新しいビジョンを必要としていた。モノのデザインだけでは社会のニードを満たせない時代になり、ビジネスサイドに介入していく必要性と、サービスという無形のソリューションに領域拡大していくことを唱えたが、結局は力及ばず最終的に自分の会社Dia-Log Japanを立ち上げるに至った。

起業とほぼ同時に、次はヨーロッパのデザインファームから突然の連絡があり、お前の経験と考え方が気に入ったので、日本顧客を任せたい、うちで一緒にやってみないかというオファーがあった。実にタイミングよく、デザインに関する考え方も先進的で合意できたため、私はスペインに出かけて契約を交わし、Mormedi社のJapan Directorとして就任し現在にいたるのである。傍ら、自社の業務としては新規事業・サービス立案やアントレプレナーのサポート、ブランディングなど、0から1を生み出す支援業務を行っている。デザインサイドからこういった業務を行うものはまだ少なく、このような考え方を大学や企業の講師として浸透させることも自分の仕事である。子育ての山場を過ぎ、40を超えてから遅まきながら自分の仕事の方向性を定め、自主的に学び開拓することに専念した、現在にいたるまでの経歴である。

そして今また私は次のステージに移ろうとしている。今度はデザインの領域を出て、本当に自分の足跡を残せるようなチャレンジをしたいと思っている。同年の友人たちは間も無く定年を迎えお疲れ様と言われる歳だが、私は今年また新たに途上国ビジネスのアントレプレナーとなり、次なるスタートラインに立つことを決めた。若い起業家たちとともに資金調達のためのピッチを行い、多くのメンターに指導を受けながら、次の夢を描いて充実した日々をおくっている。

前半で書いたように、いつも自分の指標は「唯一無二」であることだった。だからこの話は、おそらく誰の参考にもならないと思うが、ちょっと変わった生き方・働き方で30年過ごした女性の話としては面白いかもしれない。ワークライフバランスなんて考えたこともなかったが、どんなに忙しくて時間がなくても特に不満も無かったし、良い仕事・良い生活を継続するために健康を維持し、必要な休息をとった。ここ最近「Work Life Integration」という言葉も聞かれるようになり、「仕事もプライベートも人生の一部」という考え方がこれからの働き方として着目されつつある。気がつけば30年間まさにそうやって生きてきたし、だからこそワクワクした充実感を得ることができた。次の仕事ではどんな世界が待っているのか、80才まで、後25年は健康で働くつもりだ。これからもWork Life Integrationが私の人生なのである。

【北澤順子（岩井順子）氏略歴】

1962年生まれ。愛知県立芸術大学デザイン科卒。

Dia-Log Japan 株式会社 代表取締役。スペイン戦略デザインファームMormedi日本代表ディレクター。愛知県立芸術大学非常勤講師。

イノベーション・デザインコンサルタント。新製品／新事業創出支援、ブランディング、サービスデザインを専門とする。主な業務は、顧客視点を中心においた定性リサーチ・分析、事業コンセプト創出、各種コミュニケーションツール開発など。

情報機器メーカーのデザイン部署を経た後、kitazawa design office 主宰。企業の製品デザイン、新製品および新事業の企画・立ち上げなどのプロジェクトに多数携わる。後にアメリカ・ポートランドに本拠地を置くデザイン&イノベーションコンサルティング会社ZIBAにクリエイティブ・ディレクターとして在籍。米国HQ勤務後、東京オフィスにてコンシューマインサイト&トレンドチームを立ち上げ、製品・サービスのデザイン戦略マネジメント、消費者思考・行動に関するリサーチ、コンセプトデザインなどのプロジェクトを率いる。'14年、Dia-Log Japan 株式会社設立。

E-mail : kitazawa@dia-log.jp.net

<p>太子歯科医院</p> <p style="text-align: center;">院 長 小 森 敦 夫 (瑞33回)</p> <p>〒458-0823 名古屋市長区太子2-190 TEL.052-623-1184 FAX.052-623-0799 http://www.taishi-dental.com/</p>	<p>施設管理支援・情報管理支援・文化財事業 ナカシャクリエイティブ株式会社</p> <p style="text-align: center;">代表取締役 山 口 寛 社 長 (瑞37回)</p> <p>〒468-8533 名古屋市長区井の森町205 TEL.052-895-1131 FAX.052-895-1844 http://www.nakashaco.jp</p>	<p>NC工作機械・工具の総合商社 株式会社 新栄商会</p> <p style="text-align: center;">代表取締役 時 津 達 也 社 長 (瑞44回)</p> <p>〒468-0056 名古屋市長区島田2-516 TEL.052-801-1222(代) FAX.052-803-1321 http://www.e-net-shinei.co.jp</p>
---	--	--

寄稿

リトアニア独立100周年記念交流演奏会で
杉原オペラ「人道の桜」のフィナーレを演奏

新南田 ゆり

今年2018年は、リトアニア共和国の独立100周年に当たります。現地では様々な記念イベントが開催され、海外からも大勢の人々が訪れ、記念式典や行事に参加しています。

リトアニアと言えば、瑞陵高校卒業生を代表する（そして今では世界中の人がその人道的行為を讃える）外交官：杉原千畝が赴任し、6000人を救ったビザを発給した場所として知られている国です。そして最近ではカウナスの旧日本領事館（現在は杉原千畝記念館）が、日本のボランティア集団〈塗魂ペインターズ〉により新しく塗り替えられ、大きな話題になりました。

今春5月27日、カウナスシンフォニーホールにて「リトアニア独立100周年記念演奏会」が開催され、そこで杉原千畝オペラ「人道の桜」の終曲であるソプラノ（幸子役）ソロと合唱による”人道の桜”が演奏されました。このオペラは、2015年にリトアニア・ヴィリニウス国立劇場で世界初演を迎え、観客席全員がスタンディングオベーションとなる大成功を迎えた作品で、その後、早稲田大学大隈記念講堂にて日本初演（早稲田大学でオペラを上演したのは史上初）、品川公演、新宿公演を経て、今年1月のホロコースト記念日には、千畝の故郷・岐阜でも開催、いずれも高い評価を頂きました。

今回は、日本リトアニア友好協会によるプロデュースにより、現地リトアニアの国立カウナス混声合唱団、そして国立フィルハーモニー交響楽団との共演という、大変素晴らしい機会を頂く事が出来ました。日本からは作曲家（安藤由布樹氏）と私（幸子役）、そして1月に岐阜公演に参加された合唱団の有志が参加。そして、日本リトアニア友好協会事務局長：坂水昶之氏のエスコートにより、現地の国立合唱団メンバー全員が、大変綺麗なく日本語で歌えるように準備して下さっておりました。これには大変驚きました。



また、この楽曲の為にオファーしたオーケストラの人数は当初決まっていたのですが、「杉原のオペラを演奏するのであれば、ぜひ参加したい！」という楽団員が、自主参加という形で加わったそうで、舞台に乗り切らないほどの楽団員が演奏して下さる結果となりました。

合唱団（80名）は2階のバルコニーに並び、私（幸子役）はその中央に着物姿で立ちました。冒頭は、オペラ本公演の時と同様に、桜の花びらが1枚ずつ散り始めるような繊細なピアノのイントロで、幸子役のソプラノが歌い始めます。そして「さくら さくら 人道の桜 杉原あなたは正しかった…」と合唱が重なっていきます。オーケストラの響きと、合唱、そしてユダヤ人の方々を含む現地リトアニアの観客の皆さま（満席となり立ち見も）が一体となり、そしていよいよ、最後のフレーズ「咲けよ 讃えよ 人道の桜 人の道よ 未来へつづけ」と歌い上げるクライマックスでは、ホール全体が震えるような感触を得られ、私も歌いながら大きな感動に包まれました。

リトアニア独立100周年という記念すべき年に、このような形で杉原千畝オペラ「人道の桜」のフィナーレを演奏できたことは、本当に光栄なことですし、また現地の演奏家の



現地スタッフと新南田さん（中央）

皆様をはじめ、カウナス千畝記念館の館長様、在リトアニア日本大使ご夫妻、現地のリトアニア日本友好協会の方々とも、音楽を通じて素晴らしい交流ができたことに感謝しつつ、今回頂きました繋がりを活かして、更に杉原千畝氏の「人道に生きた人生」を、オペラを通じて広げていかなくてはと思いました。

この演奏会ではベートーベンの第九「歓喜の歌」も演奏され、私はリトアニアの国旗（黄色・緑・赤）と同じ色で配色されたドレスを着てソプラノソロを歌いました。その際、リトアニア国立劇場のソリストの方々ともご一緒させて頂きましたが、彼らも「ぜひ、日本語で杉原オペラをカウナスで上演したい」と話してくれました。いつか近いうちにそれが実現できることを願いながら、そして千畝が人生の決断をした、ここリトアニアが、永遠に平和でありますことを心から祈りながら、帰国の途に就いたのでした。

（杉原千畝オペラ「人道の桜」脚本・幸子役）

杉原千畝オペラ「人道の桜」の公演は、本年1月の岐阜公演に引き続き、2019年1月26日（土）、27日（日）に、岐阜市のぎふ清流文化プラザ・長良川ホールで行われることが決まっています。（T.S.）

杉原千畝顕彰施設について

愛知県が瑞陵高等学校に設置する杉原千畝顕彰施設の概要は以下の通りです。本年10月初旬に完成し、10月中旬に完成式典が行われる予定です。

(以下 愛知県のホームページより抜粋)

◎施設概要

愛知県立瑞陵高等学校 正門西側

屋外型展示施設 475㎡

事業者 株式会社電通名鉄コミュニケーションズ

総事業費114 百万円 (平成29・30 年度の2 か年事業)

◎主な展示内容

○見る人の心に響く象徴的なモニュメント

- ・ビザの発給、旅立ち、命のつながりへと続く杉原千畝氏の人道的行為を視覚的に伝えるブロンズ像
- ・杉原氏が発給した「ビザ・リスト」の陶板による全面展示

○外交官としての仕事とその意志を受け継いだ人々

- ・外務省外交史料館所蔵の公電資料

○学生時代に関する展示

- ・県立第五中学校 (現・瑞陵高等学校) 在校当時の写真・作文



全体のイメージ (校門の西側に設置される)



ブロンズ像のイメージ

平成30年度 瑞陵会 役員 (2018年 8月現在)

1. 会 長	副会長	常任幹事	常任幹事
瑞 17 中村 利雄	瑞 20 佐合 広利	瑞 22 近藤 哲典	瑞 29 佐藤 正徳
2. 名誉会長	瑞 20 寺田 志郎	瑞 23 成田 龍一	瑞 30 玉山 哲郎
校 長 新井 忠	6. 常任幹事	瑞 23 松尾 知之	瑞 30 市川 純子
3. 名誉顧問	瑞定 6 武藤 正男	瑞 23 下岡 和美	瑞 30 今津 逸生
瑞 5 高木 修	瑞定 9 井上 敏之	瑞 24 上杉 修平	瑞 30 河原紀久子
4. 顧 問	瑞 13 坂東 信吾	瑞 24 鈴木 克彦	瑞 30 村上 慎一
瑞 12 判治 誠吾	瑞 15 柴田 肇	瑞 25 朝倉 隆司	瑞 33 白井 幹裕
瑞 12 三宅 養三	瑞 16 滝山 昭	瑞 25 天鷲 操子	瑞 37 山口 寛
瑞 13 斉藤 二郎	瑞 17 石橋 畝	瑞 25 松本 有子	瑞 37 瀧崎 優佳
瑞 15 伊神 勝彦	瑞 17 片山 真紀	瑞 25 中根 卓郎	瑞 38 佐藤 成俊
瑞 17 加藤 正躬	瑞 17 水野 達郎	瑞 26 岩田 隆	瑞 39 野間 巖
瑞 17 久田 宗弘	瑞 18 木村 鍾治	瑞 27 西郷 孝	瑞 40 梶田 香織
瑞 19 揖斐 敏夫	瑞 19 木下 道子	瑞 27 鈴木 英利	瑞 42 近藤 茂弘
瑞 20 錫村 明生	瑞 19 稲葉 賢治	瑞 27 早瀬 弘親	瑞 47 三品 耕作
瑞 22 岡本 信明	瑞 20 栗田 真砂	瑞 27 若松 文彦	7. 総 務
瑞 24 丸山 昌宏	瑞 20 濱島誠一朗	瑞 28 田中 健二	全日教頭 篠原 昇
5. 副会長	瑞 20 斉藤 純司	瑞 28 富屋誠一郎	々 瑞 34 兵藤 直人
瑞 17 青木 偉晃	瑞 20 森 重統	瑞 28 大脇 一生	8. 会計管理
瑞 17 天野 清美	瑞 21 澤田 耕一	瑞 28 為房 信弘	事務長 田中 義仁
瑞 18 一ノ瀬喜之	瑞 21 秋田真希子	瑞 28 渡辺 大介	9. 監査
瑞 18 安島 政実	瑞 21 木村 恵子	瑞 29 青山 和暁	定時教頭 堀田 浩史
瑞 19 浜島 昭二	瑞 21 柴田 達男	瑞 29 石原 広道	瑞 5 三浦チエ子
	瑞 22 鬼頭 誠	瑞 29 上林 公子	
	瑞 22 鬼頭 恵子	瑞 29 山下富喜雄	

<p>てらかど動物病院</p> <p>院 長 寺 門 俊 博 獣 医 師 (瑞45回)</p> <p>〒465-0087 名古屋市中名東区名東本通5-19 TEL.052-703-1101 FAX.052-703-1189 http://www.terakado-ah.com</p>	<p>稲垣俊宏税理士事務所</p> <p>税 理 士 稲 垣 俊 宏 (瑞47回)</p> <p>〒471-0064 豊田市梅坪町9-4-5 FESTA80 208 TEL.0565-63-5764 FAX.0565-63-5774 E-mail inagaki-cpta@arrow.ocn.ne.jp</p>	<p>山本屋</p> <p>専務取締役 青 木 裕 典 (瑞60回)</p> <p>〒464-0854 名古屋市中千種区大久手町5-9-2 TEL 052-733-7413 FAX 052-784-7440 http://a-yamamotoya.co.jp</p>
--	---	--

瑞 陵 会 報 2018

平成29年度 瑞陵会会計決算書

収入済額 6,767,600円 支出済額 4,846,044円
 残額 1,921,556円

収入の部 (単位：円)

項目	予算額	収入済額	残 額	摘 要
繰越金	1,666,540	1,666,540	349,170	前年度から繰越
繰入金	2,076,956	2,426,126	349,170	賛助会計、基金（エアコン）から繰入
入会金	1,140,000	1,146,000	6,000	3,000円×380名
参加費	1,000,000	1,100,000	100,000	総会参加費
広告収入	400,000	355,920	△ 44,080	名刺広告収入等
雑収入	504	73,014	72,510	名簿販売、エコノミスト販売等
合 計	6,284,000	6,767,600	483,600	

支出の部

項目	予算額	支出済額	残 額	摘 要
事務費	750,000	267,817	482,183	
報償費	300,000	66,200	233,800	全国大会表彰、供花、講演等
報酬費	100,000	0	100,000	非常勤職員の報酬
通信費	200,000	99,305	100,695	郵便切手等
需用費	150,000	102,312	47,688	同窓会館電気料・110周年用消耗品費等
会議費	150,000	36,729	113,271	
役員会	50,000	35,000	15,000	会議経費等
委員会	50,000	0	50,000	会議経費等
需用費	50,000	1,729	48,271	消耗品等
事業費	5,193,456	4,541,498	651,958	
交流会会場費	2,000,000	2,059,978	△ 59,978	総会・交流会費用
会報費	1,000,000	855,000	145,000	会報印刷・送付費用
エアコンリース代	1,083,456	1,083,456	0	感喜堂エアコン
学校支援事業	1,000,000	443,064	556,936	保健室製氷機等
支部支援事業	110,000	100,000	10,000	関東瑞陵会支援
予備費	190,544	0	190,544	
合 計	6,284,000	4,846,044	1,437,956	

平成29年度 瑞陵会積立金会計決算書

収入済額 2,202,867円 支出済額 0円
 残額 2,202,867円

収入の部 (単位：円)

項目	予算額	収入済額	増減額	摘 要
繰越金	2,202,680	2,202,680	0	前年度から繰越
雑収入	320	187	△ 133	預金利息等
合 計	2,203,000	2,202,867	△ 133	

支出の部

項目	予算額	支出済額	残 額	摘 要
繰出金	0	0	0	

平成29年度 瑞陵会賛助会費会計決算書

収入済額 5,472,232円 支出済額 1,342,670円
 残額 2,202,680円

収入の部 (単位：円)

項目	予算額	収入済額	増減額	摘 要
繰越金	1,723,037	1,723,037	0	
賛助会費	2,000,000	3,749,170	1,749,170	543名
雑収入	963	25	△ 938	預金利息
合 計	3,724,000	5,472,232	1,748,232	

支出の部

項目	予算額	支出済額	差 額	摘 要
繰出金	1,367,500	1,342,670	△ 24,830	瑞陵会会計へ繰出

(一財) 瑞陵高校瑞陵会基金

平成29年度収入 約1,350万円 支出 約800万円
 3月末現在額 約1,650万円
 (前年度繰越額約1,090万円+平成29年度分1,350万円=2,440万円)

平成30年度 瑞陵会会計予算書

収入予算額 6,916,300円 支出予算額 6,916,300円
 差引額 0円

収入の部 (単位：円)

項目	予算額	前年度予算額	増減額	摘 要
繰越金	1,921,556	1,666,540	255,016	前年度から繰越
繰入金	2,454,276	2,076,956	377,320	賛助会計、基金（エアコン）から繰入
入会金	1,140,000	1,140,000	0	3,000円×380名
参加費	1,000,000	1,000,000	0	総会参加者(200名)
広告収入	400,000	400,000	0	名刺広告収入等
雑収入	404	504	△ 100	預金利息等
合 計	6,916,300	6,284,000	632,300	

支出の部

項目	予算額	前年度予算額	増減額	摘 要
事務費	950,000	750,000	200,000	
報償費	400,000	300,000	100,000	表彰・慶弔等
報酬費	200,000	100,000	100,000	非常勤職員の報酬
通信費	200,000	200,000	0	郵便切手等
需用費	150,000	150,000	0	電気料・消耗品費等
会議費	150,000	150,000	0	
役員会	50,000	50,000	0	会議経費等
委員会	50,000	50,000	0	会議経費等
需用費	50,000	50,000	0	消耗品等
事業費	5,429,276	5,193,456	235,820	
交流会会場費	2,000,000	2,000,000	0	総会・講演会・懇親会費等
会報費	1,000,000	1,000,000	0	会報印刷・送付(印刷・基金控除)
エアコンリース代	1,029,276	1,083,456	△ 54,180	基金から(85,773円×12月)
秋期文化行事	200,000	0	200,000	新設※
学校支援事業	1,000,000	1,000,000	0	学習環境整備
支部支援事業	200,000	110,000	90,000	関東瑞陵会支援
予備費	387,024	190,544	196,480	
合 計	6,916,300	6,284,000	632,300	

※感喜堂における瑞陵会主催の文化期行事を企画 (p.14参照)

平成30年度 瑞陵会積立金会計予算書

収入予算額 2,203,000円 支出予算額 0円
 差引額 2,203,000円

収入の部 (単位：円)

項目	予算額	前年度予算額	増減額	摘 要
繰越金	2,202,867	2,202,680	187	前年度から繰越
雑収入	133	320	△ 187	預金利息等
合 計	2,203,000	2,203,000	0	

支出の部

項目	予算額	前年度予算額	増減額	摘 要
繰出金	0	0	0	

平成30年度 瑞陵会賛助会費会計予算書

収入予算額 5,130,000円 支出予算額 1,425,000円
 差引額 3,705,000円

収入の部 (単位：円)

項目	予算額	前年度予算額	増減額	摘 要
繰越金	4,129,562	1,723,037	2,406,525	前年度から繰越
賛助会費	1,000,000	2,000,000	△ 1,000,000	200名
雑収入	438	963	△ 525	利子等
合 計	5,130,000	3,724,000	1,406,000	

支出の部

項目	予算額	前年度予算額	増減額	摘 要
繰出金	1,425,000	993,500	431,500	

瑞陵高校の近況

瑞陵進路セミナー（平成29年度）

- 1 1年生キャリアガイダンス 5月24日（水） 7限
安島政実氏（18回）
「世界は広いよー外資系企業の経験からー」
- 2 進路セミナー
 - ① 5月24日 安島政実氏（18回）
「ビジネスの世界はおもしろいー世界にはばたこうー」
 - ② 6月2日 仲保吉正氏（28回）
「ビジネスアイデアの発想方法とビジネスプランの作成について」
 - ③ 10月27日 夏目勝弘氏
「グローバル化時代の人材について」
 - ④ 11月17日 木村有作氏（27回）
「学芸員の仕事ー文化財を守るー」
- 3 1年生職業人講演会（OBのみ掲載）
建築関係 宮崎雅博氏（20回） 株式会社杉本組
法曹関係 安井一大氏（56回）
鶴舞総合法律事務所 弁護士

濱島誠一郎奨学事業報告（平成29年度）

- 1 バス旅行による研修
 - ・二条城探訪と茶道研修（一部和菓子作り体験）
7月27日（木）生徒32名
 - ・大和古寺探訪（薬師寺、唐招提寺、法隆寺、中宮寺）
2月17日（日）生徒30名
 - ・見て食べて文化人類学入門（若狭小浜・敦賀の旅）
3月13日（火）生徒36名
- 2 博物館・美術館での研修
 - ・「よみがえれ！シーボルトの日本博物館」
5月20日名古屋博物館 生徒16名
 - ・「大エルミタージュ美術館展」
7月2日 愛知県美術館 生徒29名
 - ・「名古屋の美術館はしご旅」（ボストン美術館とヤマザキマザック美術館） 3月4日 生徒9名
- 3 研究助成
 - ・「第16回君が作る宇宙ミッション」JAXA相模原キャンパス 1名
 - ・知の探求講座「自動車を支える科学技術の現在・未来」豊田工大 2名
 - ・「山田定跡」についてコンピュータ評価を用いた研究（五中41回生にして36歳で夭折したプロ棋士山田道美9段の定跡研究）棋道部6名による共同研究

瑞陵高校助成基金事業（熊澤喜八郎事業）

- 1 海外学習事業
「イタリヤを巡る6泊8日の旅」10名（3月21日～28日）
- 2 ニュージーランド・ウエリントンでの短期留学
（男子1名、女子1名）
7月28日～8月21日
男子 Sootts College
女子 Queen=Margaret College
- 3 イングリッシュキャンプ助成事業
7月22日、12月23日、3月17日 計50名

大学入試状況（過去3カ年）

	30年度入試	29年度入試	28年度入試		30年度入試	29年度入試	28年度入試		30年度入試	29年度入試	28年度入試
北海道大	1	3	5	三重大	9	8	15	日本大	4	6	1
東北大	0	2	0	京都大	1	3	1	愛知大	50	41	60
筑波大	2	2	1	大阪大	3	3	2	愛知医科大	10	12	7
千葉大	0	1	0	奈良女子大	1	2	1	愛知学院大	13	13	22
東京大	0	0	0	神戸大	1	2	2	愛知淑徳大	37	25	30
東京工業大	0	0	0	広島大	3	3	0	金城学院大	16	17	26
東京外国語大	1	0	0	愛知県立大	11	4	17	椋山女学園大	22	24	24
東京海洋大	0	1	1	名古屋市立大	13	12	14	中京大	74	58	77
お茶の水女子大	1	1	0	国公立大学計	152	173	168	豊田工業大	7	9	4
一橋大学	0	1	0					南山大	79	189	127
横浜国大	4	3	1	青山学院大	6	4	3	名古屋外大	44	22	40
富山大	1	0	2	慶応義塾大	2	3	4	名城大	156	149	145
金沢大	1	6	2	早稲田大	2	6	15	藤田保健衛生大	19	19	28
信州大	3	9	5	上智大	4	2	2	京都女子大	2	0	1
静岡大	6	3	6	明治大	18	15	22	立命館大	89	77	98
愛知教育大	16	17	10	法政大	14	3	22	同志社大	30	45	45
名古屋大	27	30	14	立教大	5	5	2	関西大	16	18	18
名古屋工業大	12	16	19	中央大	14	15	14	関西学院大	15	7	5
岐阜大	15	18	13	東京理科大	17	19	11	私立大学計	1001	956	1031

部活動の活躍（平成29年8月～30年5月まで）

高文連全国将棋新人大会 優勝 迎 流歌（1月 浜松市）
バスケットボール第4回 3×3 U-18日本選手権
男子の部 出場 柴木隆太郎、北英明、伊藤風雅、岡村玲太
（12月 駒沢オリンピック公園屋内球技場）

成29年度
東海高等学校新人体育大会
陸上競技：男子走幅跳6位、女子4×400R7位 入賞
男子：砲丸投、槍投、走幅跳
女子：円盤投、砲丸投（出場）
愛知県高等学校新人体育大会（県大会出場）
バドミントン：女子団体、個人ダブルス、シングルス、
剣道：女子個人、サッカー
陸上：26種目（延46名出場）、男子総合3位、女子総合2位
水泳：男子200m個メ、女子：200平、200バタ
第38回名古屋市内県立高校体育大会（女子総合2位）
陸上：男子・女子総合優勝、駅伝大会男子4位、女子3位
サッカー3位
水泳：男子総合3位、女子総合2位、
バドミントン：男子団体2位、女子団体3位
女子バレーボール3位
第14回レディース陸上競技大会 走り幅3位
バスケットボール第4回 3×3 U-18日本選手権県予選 優勝と2位
高文連将棋新人大会 棋道部 愛知県大会・東海大会優勝
生物部：日本生物学オリンピック2017予選 優秀賞2名
食物科：牛乳製品利用料理コンクール キャベツのパンナコッタ入選
専門高等学校生徒体験発表会 3位入賞

平成30年度
東海高等学校総合体育大会
陸上男子：400m、槍投、女子：円盤投、走幅跳
愛知県高等学校総合体育大会（県大会出場）
陸上：21種目40名出場、サッカー、ソフトボール
アンサンブルコンテスト県大会
吹奏楽部：フルート五重奏、クラリネット八重奏
中部日本個人・重奏コンテスト愛知県大会：コントラバス
独奏
生物部：日本農芸化学会 ジュニア農芸化学会「高校生による研究発表会」「微生物燃料電池」銅賞
A I Tサイエンス大賞 あったかほかほか発酵熱vol2
優秀賞
映研：映画甲子園 佳作
全国高等学校将棋選手権大会 県大会
棋道部：女子団体2位
高文祭書道展 書道：激励賞 2名
国際高校生書道展 入選2名

平成30年度全国大会・世界大会出場
全国高等学校総合体育大会（8月4日三重県伊勢市）
陸上競技女子円盤投 中安海南子
ワールドヨーヨーコンテスト A1の部 中村 隆一
（8月9日～12日 中華人民共和国・上海）

全国高文連将棋新人大会に参加して

208R 迎 琉 歌

先日行われた「第26回全国高等学校文化連盟将棋新人大会」に愛知県代表として出場し、優勝という結果を収めることが出来ました。

今大会については、愛知県予選が11月に開催されました。また、ほぼ同時期に各地で県代表を決定する白熱した厳しい戦いが繰り返されました。

県大会を含め、この大会で私が心に留めていたことは、「特別な舞台に立てる幸せ、喜びをかみしめたい」ということでした。全国大会のような大舞台で自分の思い通りに駒を動かせる、自分のスタイルで将棋が指せる、ということはもちろんこの先にはないことなのかもしれない。そう考えると、今しかないこの時を存分に精一杯大切にしたい、という気持ちが出てきました。

対局中に強く感じたことがありました。それは、私は一人ではない、ということです。この大会では、家族や学校の先生、友達にたくさんの応援をいただいて、「幸せ者だな、一人ではないんだな」と感じる事が何度もありました。

今大会で私は、将棋の技術以上に大切なものが得られたと思います。これからも、周りで支えていただいているたくさんの方々への感謝の気持ちを忘れずに精進していきます。

最後になりましたが、応援していただいた新井校長先生、大会への出場に尽力していただいた棋道部顧問の山崎辰雄先生、担任の古田育代先生、瑞陵会の皆様、その他大勢の方々へ感謝の意をお伝えしたいです。

ありがとうございました。



表彰式での記念撮影 右が迎さん

鳥居大名譽顧問を偲んで

副会長 佐合 広利 (瑞20回)

五中37回卒の鳥居大先生が平成29年12月16日にご逝去されました。11月中旬に、「五中記念石碑」の碑文のご説明に森重統君(20回)とご自宅に伺い言葉を交わしたことが最後でした。

鳥居先生は、昭和31年に名古屋市立工業高校に奉職以来、桜台高校校長、市教育委員会教育長、教育委員、教育委員長を歴任され、外国人英会話講師による英語指導によるグローバル人材の育成など、現在の市教育行政の礎を築き、また、愛知淑徳大学教授、同短期大学学長も務められ、公

立・私立ともに名古屋の教育に多大な功績を残されました。

また、五中-瑞陵百周年記念事業委員会委員長として、御園座での記念式典、歌舞伎鑑賞、記念誌の発行、募金活動などに尽力され、記念事業を成功に導かれました。その後は、瑞陵会名誉顧問として、瑞陵会の取組みを支えて頂きました。総会・交流会には、唯一の五中卒業生として出席して頂き、先生の叱咤激励のご挨拶が心に残っています。

昨年、110周年記念式典において瑞陵高校及び瑞陵会への功績により感謝状が贈呈されました。また、五中跡地の瑞穂ヶ丘中学校に先生悲願の「記念碑」が建立できたことは、本当に良かったと思っています。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

一般財団法人瑞陵高校瑞陵会基金 寄付者 (敬称略)(平成29年9月~平成30年6月) ご協力ありがとうございます。

五7 近藤 明 (ご子息より)	五37 前田 豊	瑞12 山口 昇	瑞20 山内美和子	瑞25 朝倉 隆司	瑞49 真田 篤史
五28 丹羽勝太郎	五38 磯部 博一	瑞12 三宅 養三	瑞20 篠田 憲孝	瑞27 内田久美子	瑞50 坂田由紀子
五29 服部 時夫	五39 奥田 勝己	瑞15 伊藤 昇	瑞20 森 重統	瑞27 村瀬 光代	定15 戸嶌 博和
五30 永田 実	五39 早川 政保	瑞16 寺本 郁代	瑞20 坂内 敏嗣	瑞27 西郷 孝	定16 伊藤 正
五34 杉山 和也	五39 芳田 和夫	瑞16 志賀 直信	瑞20 柴田洋治郎	瑞29 市川 裕一	一般 齊藤 理紀
五36 浅井 昭	五40 奥村 保明	瑞17 青木 俣晃	瑞21 飯塚美代子	瑞30 玉山 哲郎	
五36 大島 和男	瑞4 三國喜四郎	瑞19 小熊 亨	瑞21 柴田 達男	瑞32 高橋 健一	
五36 原 良三	瑞5 亀田 重満	瑞20 鈴木 基夫	瑞21 村田 薫	瑞38 鈴村 陽子	
五37 河村 裕	瑞8 近藤 富枝	瑞20 荒木 春夫	瑞22 坂野 誠	瑞40 染木 咲子	
	瑞8 前田 定雄	瑞20 中村 正博	瑞24 高橋 成夫	瑞41 大矢 康代	

賛助会費募集

瑞陵会はネットワーク作りと財政再建が最大の課題です。卒業生の入会金だけでは事業の経費がまかなえず、財政の健全化が課題となっております。

そこで、財政健全化のために、2012年から賛助会費を募ることにしました。5年分の年会費と考え賛助会費にご協力下さい。5年間会報を送らせていただきます。会報は瑞陵会ホームページでもご覧頂けますが、あなたの愛校心が瑞陵会の支えです。振り込み用紙の請求は瑞陵高校内瑞陵会事務局までどうぞ。(用紙がなければ、振込み手数料本会払いでも構いません) 賛助会費一口5,000円(一口以上でお願いします)

郵便振替(口座番号00880-7-190740) 払込先 瑞陵会

会報発送と名簿整理の都合上 〒・住所、氏名、卒業回(卒業年)をご記入下さい。

賛助会員名簿 (敬称略) 平成29年9月~平成30年7月7日

五36 浅井 昭	瑞15 伊藤 昇	瑞16 小島 純一	瑞20 坂内 敏嗣	瑞27 内田久美子	瑞40 染木 咲子
瑞4 三國喜四郎	瑞16 寺本 郁代	瑞16 石川 壽美	瑞20 平松 幸子	瑞27 村瀬 光代	瑞41 大矢 康代
瑞5 亀田 重満	瑞16 森下 民代	瑞17 青木 俣晃	瑞21 飯塚美代子	瑞29 市川 裕一	瑞60 花井 竜太
瑞5 篠田 康夫	瑞16 神頭 和子	瑞19 石川 政雄	瑞22 坂野 誠	瑞30 玉山 哲郎	定16 浜島 勝美
瑞10 河合 清	瑞16 山内 信幸	瑞19 山下 令子	瑞24 高木 宗一	瑞31 川崎 英則	
瑞13 酒井 勝彦	瑞16 館本 新生	瑞19 山内 孝久	瑞25 朝倉 隆司	瑞38 鈴村 陽子	
瑞13 都竹俊之助	瑞16 北川 春生	瑞20 山内美和子	瑞26 山本 一枝	瑞40 東 葉子	

編集後記 //

6月に約1ヶ月間、フランスに滞在しました。その間、本会報の編集を森先生、西郷先生にお任せしてしまい、ご迷惑をおかけしました。

最近、横断歩道で停止しない日本のドライバーが話題になっていますが、フランス人はよく止まります。信号のないところは無論、歩行者信号が赤でも少し距離があると渡り出す人が、高齢者でも結構います。そこへ高速で突っ込んでくる車や渡り終える前に信号が変わって右左折してくる車がありますが、ちゃんと止まります。「危ない!」と思ったことも、いらついたドライバーを見たこともありません。フランス人は運転がうまい、というのが私の以前の印象ですが、うまさにはこの余裕も含まれるのでしよう。(S. H.)

瑞陵会ホームページのご案内

<http://www.bekkoame.ne.jp/i/zuiryokai/>

会報は瑞陵会のホームページにも掲載しています。今まで郵送でお届けしていた同窓生で、ホームページがあれば郵送不要と思われる方は、編集委員までお知らせください。

原稿募集のご案内

瑞陵会報の原稿として、在校生時代の出来事、学校行事、生徒会活動、部活動など、卒業生の活躍などを書いていただける方(自薦・他薦)は編集委員までお知らせ下さい。

編集責任者：浜島昭二(瑞19回)
shoji.hamajima@gmail.com

瑞陵法曹会有志一同

外堀通り法律事務所

高木 修 (瑞5回)
〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-2-7
丸の内弁護士ビル901号
TEL.052-201-7656 FAX.052-204-1244

東海法律事務所

石川 智太郎(瑞11回)
〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-5-35
弁護士ビル901・902号
TEL.052-961-0651 FAX.052-961-0653

弁護士法人 柴田・中川法律特許事務所

柴田 肇 (瑞15回)
〒440-0814 豊橋市前田町1-2-11
TEL.0532-53-7087 FAX.0532-54-2106

金山総合法律事務所

渥美 玲子 (瑞22回)
〒460-0022 名古屋市中区金山1-9-17
金山スズキビル8階
TEL.052-331-9054 FAX.052-331-9060

大島真人法律事務所

大島 真人 (瑞26回)
〒460-0003 名古屋市中区錦2-19-1
名古屋鴻池ビル9階
TEL.052-220-2225 FAX.052-220-2228

中部総合法律事務所

長谷川 忠男(瑞15回)
〒462-0014 名古屋市中区楠味鏡5-311
TEL.052-982-7632 FAX.052-982-7862
TEL.052-982-7672

弁護士法人 岐阜合同法律事務所

安藤 友人 (瑞22回)
〒500-8812 岐阜市美江寺町1-5
岐阜北青色会館
TEL.058-264-3780 FAX.058-264-3784

臼井法律事務所

臼井 幹裕 (瑞33回)
〒460-0003 名古屋市中区錦3-1-30
錦マルエムビル3階
TEL.052-218-0566 FAX.052-221-5656

さくら総合法律事務所

加藤 謙一 (瑞19回)
〒514-0007 三重県津市大谷町21-8
TEL.059-227-6951 FAX.059-225-5943

成田龍一法律事務所

成田 龍一 (瑞23回)
〒460-0003 名古屋市中区錦3-14-14
セントラル錦ビル6階
TEL.052-973-0531 FAX.052-973-0533

光が丘法律事務所

佐藤 成俊 (瑞38回)
〒464-0006 名古屋市中区千種区光が丘1-18-3
TEL.052-712-3350 FAX.052-712-3352

加藤茂法律事務所

加藤 茂 (瑞19回)
〒466-0064 名古屋市中区昭和区鶴舞3-8-9
TEL.052-732-7821 FAX.052-732-7822

弁護士法人 名古屋総合法律事務所

浅野 了一 (瑞24回)
〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-20-25
丸の内S Tビル6階
TEL.052-231-2601 FAX.052-231-2602

ジェイ・ユー・エヌ服部順法律事務所

服部 順 (瑞38回)
〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-21-25
清風ビル5階
TEL.052-962-8511 FAX.052-962-8512

中村正典法律事務所

中村 正典 (瑞21回)
〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-6-27
EBSビル2階
TEL.052-971-7424 FAX.052-971-7425

後藤和男法律事務所

後藤 和男 (瑞24回)
〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-14-20
ザ・スクエア8階S8号室
TEL.052-202-0680 FAX.052-203-1417

鶴舞総合法律事務所

安井 一大 (瑞56回)
〒466-0015 名古屋市中区昭和区御器所通3-18
エステイプラザ御器所4階
TEL.052-852-1220 FAX.052-852-1227

原島法律事務所

栗山 晋 (瑞57回)
〒460-0003 名古屋市中区錦3-5-31
ジブラルタ生命名古屋錦ビル4階
TEL.052-959-4511 FAX.052-959-4512

栄パーク総合法律事務所

河口 航平 (瑞61回)
〒461-0005 名古屋市中区東桜一丁目
10番29号
TEL.052-962-2268 FAX.052-962-2259